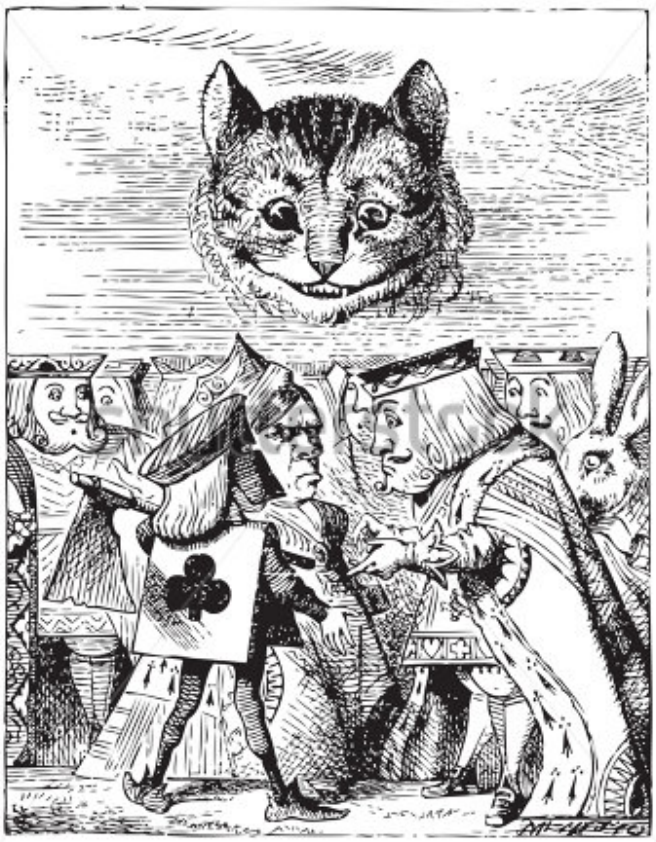
2022年9月1日

月刊 もぐら通信

2025年9月1日　第１５９号　初版　http://abekobosplace.blogspot.jp

あなたへ：
迷う事のない迷路を通って
あなただけの番地に届きます
電話 042-ABE-KOBO
FAX 042-KOBO-ABE

弱者への愛には、いつも殺意がこめられてゐる



目次

１ 目次…page ２
２ 記録＆ニュース＆掲示板…page ３
３ 巻頭詩（４４）：FOR A CHILD BORN DEAD：死産した子供のために：エリザベス・ジェニングス……page ７
４　コーボー・ベーシックス kobo basics（５）：クレオール……page １０
５『都市への回路』論（１４）：（２）演劇について：②演劇の現代/③夢と俳優……page １８
６　ＳＦで思考するための本棚（７）：古事記SF論（２）……page ２５
７　遁走倶楽部（２）：エピチャム語から本邦初の翻訳　S・カルマ氏［翻訳］岩田英哉……page ３０
８　日本一極国家論（続篇）：GAME　CHANGE理論（８）：４.１.４.２　軍事費用計算論（２）/４.１.５　日本国家核ミサイル保有論……page ３１
９　ネット・モナド論（３２）：I　プーチンは何を考へてゐるか５：Bretton　Woods　III（２）/II この転換点の激動期に《私》は如何に生きるべきか……page ４２
１０　カフカの箴言（６）：人間の成長の決定的な瞬間は……page ４７
１１　ショーペンハウアーの箴言（０）：哲学とは何か……page ４８
１２　糞尿と性愛の文学~生殖器・排泄器同一社会論仮説~（３）：１。古事記の中の糞尿と性愛/１．１ 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（２）：待て次号：岩田英哉…page
１３　高天原便り（５）：向日葵（ひまわり）咲く……page５０
１４　縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（３４）：５.３６　鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？/５.３７　大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか……page ５１
１４ Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（１２）：扇… page
１５　東ドイツ回想記（１）…５３page
１６　編集後記…５７page
１７　編集方針……page ５８

ニュース＆記録＆掲示板

The best tweets of the month

該当なし

該当なし

今月の安部真知

いちぢく@kncmc2019·Aug 10

安部公房氏夫人

今月の他人の顔

ホッタタカシ@t_hotta·Jul 29

去年の勅使河原宏没後20年のトークショーで、石井岳龍監督が「『他人の顔』だけは少しノレなかった、安部公房文学の映像化で背景美術がシュールを演じるのはマズいと思う。仲代さんが損してる」と指摘していたが、原作が思弁小説なので筋書きだけ取り出すと陳腐化する恐れを抱いたのかもしれない。

阿乱隅氏@yoiinago417·Jul 28

明日はBS松竹東急「他人の顔」放送。安部公房原作脚本、監督勅使河原宏の「砂の女」コンビが、不確かな世界におけるアイデンティティの問題を追及した野心作です。先鋭的な美術等に見る「60年代モダン」なビジュアル面も見どころ。主人公の妻京マチ子の美貌。岸田今日子に市原悦子、クセ者女優の怪演。

橙@strangeorange81·Jul 30
『他人の顔』は映像のシュールさで話題になりがちで、私も武満徹の音楽と共にそこに惹かれるのだけれども、話の骨子に注目してみれば生臭い話。
安部公房の文体みたいな達矢さんの生臭みを無機質化する平幹二朗と岸田今日子もまたシュールな背景美術の一部と言えようw

今月の観世栄夫

TnkAk@tnkak1966·Aug 3
8/3は能楽師観世栄夫さんご生誕の日で
す。
一時能楽から離れていたとはいえ、安部公房＋勅使河原宏監督作品へはほぼレギュラー参加、オペラやミュージカル演出と多才ぶりを発揮、「恐竜戦隊コセイドン」長官役は驚いた。
新藤兼人監督作品へは晩年まで出演。

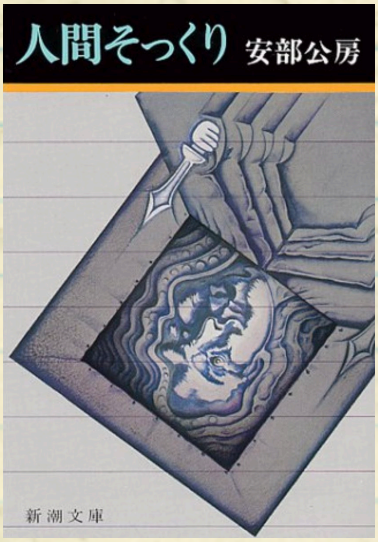
今月の砂の女

続・池袋らぶせくしー@RUsrjkCwbF354K8·Aug 5
『砂の女』（1964）
安部公房自身の脚本による傑作中の傑作。砂の地に昆虫採集に来た教師が、砂の集落に軟禁、砂掻きをさせられる日々。彼は何とか逃亡を試みるが…。昔小説で読み脳裏に焼き付いていた砂の穴の家が映像で甦る鮮烈さ！彼が虜になっていく岸田今日子の可愛さとエロさは原作にはない魅力

今月の人間そつくり

伊吹@読書垢@T4Tn9·Jul 29

ラジオ番組の脚本家のもとに、火星人と自称する男がやってくる。雄弁に自分が火星人だと語っていく様を見ていると、彼が本当に火星人なのか、それとも気が狂ったただの人間なのか？「人間」であるという定義が何なのか次第に混乱していく…安部公房の異色のSF小説。



今月の阿波環状線の夢

madeleine@storyforf·Aug 11

書くべき夢は、見た（2文字傍点）夢であり、だからこそ書くことも可能なのだ。

——安部公房「阿波環状線の夢」

今月の安部公房論

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·31m

自由と反復：安部公房『砂の女』論 (特集 変容する欲望：高度経済成長期を読む)

https://cir.nii.ac.jp/crid/1523951029759692800

詩的文学論文bot@shiteki_bungaku·7h

地図と契約--安部公房『燃えつきた地図』論

https://cir.nii.ac.jp/crid/1520853833321009408

もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（２０１２年９月３０日）から数へて来月が丁度１０年目です。この１０年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中埜肇宛書簡第４信』全集第１巻７８ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

１。応募期間：２０２１年９月１日より２０２２年８月３１日まで１年間。発信主義。着信主義ではない。８月３１日付の発信は有効です。
２。送付先メールアドレス：eiya.iwata@gmail.com
３。対象ジャンル：小説
４。小説の長短：
次の安部公房の短編の量の間のいづれかの量：
（１）『赤い繭」の量：最小２０００文字（４００字原稿用紙５枚）
（２）『魔法のチョーク』の量：最大６３００文字（４００字原稿用紙１６枚）
（＊）コントは対象外とします。

５。応募条件：
（１）安部公房の読者
（２）一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。
（３）年齢：不問
（４）性別：不問
（５）国籍：不問
（６）言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。
（７）提出文書のフォーマット：pdf
（８）かな・漢字：新旧字体不問、正仮名・当用仮名不問

６。応募名：
（１）本名を名乗つてはならない。
（２）安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗つてはならない。
（３）ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可
（４）最も望ましい応募者は国家に登録されてゐない者である

７。選考委員：
（１）もぐら通信の全ての読者
（２）国内外の読者を問はない。

８。作品の公表：
（１）編集部に到着後都度読者に配信します
（２）月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

９。評価方法・評価基準：
（１）安部公房の同社としての選考委員の独自の判定基準に委ねる
（２）採点の範囲は、１点から１０点まで
（３）最終的な判定は、もぐら通信編集員及び発行人が各作品に下す

１０。評価・選考のためのネット選考会月次開催
これは都度案内します

１１。賞金：１０万円
最終受賞者の複数ゐる場合には均等に分割する

１２。将来の展望：
ノーベル文学章の日本円換算１億円以上にします

以上

巻頭詩
（４４）

死産した子供のために

エリザベス・ジェニングス
翻訳　岩田英哉

ELIZABETH JENNINGS

FOR A CHILD BORN DEAD

What ceremony can we fit
You into now? If you had come
Out of a warm and noisy room
To this, there'd be an opposite
For us to know you by. We could
Imagine you in lively mood

And then look at the other side,
The mood drawn out of you, the breath
Defeated by the power of death.
But we have never seen you stride
Ambitiously the world we know.
You could not come and yet you go.

But there is nothing now to mar
Your clear refusal of our world.
Not in our memories can we mould
You or distort your character.
Then all our consolation is
That grief can be as pure as this.

【和訳】

死産した子のために

お前のためにふさはしい今現在にするためにはどんな儀式が良いのだらうか？もし、お前が暖かく騒がしい空間からこの儀式に出てきたとして、その儀式は、お前が傍にゐると知ることにはならぬといふ、私たちにとつては逆のことなのかもしれない。しかし、その儀式の場であつても、お前が元気で生き生きとしてゐる状態にゐることだつたら想像できるかも知れないのです。

そして次には、反対の側を見てみるのです、つまり
お前から引き出された其の状態を見る、つまり
死の力に打ち負かされた息といふ状態をみる。
しかし、私たちが決して見ることのできなかったのは、お前が大股で歩き、野心的で堂々として、私たちの知つてゐる此の世界を闊歩することでした。お前は来ることができないのだし、それ故に、まだ行くこともできなかつたのですから。

しかし、今や、私たちの世界に対するお前の清らかではつきりとした拒絶を毀損することなど、ないのです。
私たちの記憶や回想の中で、私たちはお前を鋳型に嵌めることはできないし、お前の性格を歪めることもできないのです。
さうであればこそ、だから、私たちのあらゆる慰撫もなぐさめも
深い悲しみが、この儀式と同じ位に純粋であり得るといふことなのです。

【解釈と鑑賞】

この詩も、やはり女性にしか書くことのできない詩です。

リルケならばもつと別な書き方をするでせう。その死子の形象の一つが典型的な詩人の姿として歌つた、乙女に対して柱の中に彫り込まれ閉ぢ込められて生きてゐる詩人の彫像の姿、生きた世界に触れながら生命の純潔に隔絶してゐる男の姿でありませう。

このやうに考へて来ますと、この女性の詩人が死んで生 まれて来た子供が男の子なのか女の子なのかを明らかに してゐないといふことにも、深い意味のあることでせ う。Babyなどいふ語彙の選択ではなく、Childといふ語 彙の選択に、この話者である母親の我が子に対する敬意 を私は感じます。それ故に、生きたものとして、死者を 悼む儀式のことと、生まれる以前にであ

か、生まれる や否やであるか、既に死者であつた我が子の、生に対する拒絶をclearだといふ形容詞で荘厳することができる。それ故に、この子供の生に対する拒絶の姿を「清らかではつきりとした拒絶」と訳しました。このclear は、最後の一行である、

That grief can be as pure as this.
この儀式と同じ位に純粋であり得るといふことなので
す。

とある一文の此のpure、この純粋に直接響いてゐます。

悲しみとは常に、例外なく、私たちにとつては何かの喪失ですが、子を死産した母親の悲しみは、「私たちのあらゆる 慰撫もなぐさめ」と釣り合つてゐる。ここに至つて、それまで死の悲しみの深さのためにぼんやりとしてゐた 「私たち」とは、この母親だけではなく、その夫である父親としての「私たち」夫婦の悲しみであるとはつきりと知られるのです。

最後に、この三つの連を貫く玉の緒は、第一連の儀式といふ言葉であり、これを代置して其の後同じ連でthisと 言ひ、第二連では此の儀式の場所を基準にして反対側を指して第一行をはじめ、その場で我が子の生と死を詠み、第三連で親の悲しみと共に、最後にthisの語を置いて其の悲しみと子どもの存在の純粋を荘厳した。

第一連の「お前が暖かく騒がしい空間からこの儀式に出てきたとして」とある「暖かく騒がしい空間」といふ此の世もまた荘厳したのです。この空間は、これからも夫婦二人の生きて行く場所であり、儀式とは「反対側」の場所です。

男の体には生命を宿す場所は無く、男性といふ性は常に死を宿す身であれば、この女性の死産といふことを詠んだ詩は、限りなく男に近づいた女の書いた詩といふことができるかも知れません。逆の方向の詩を男は書くことが、自分の死と引き換へでなければ、できない。そんな詩になることでせう。

コーボー・ベーシックス

kobo basics
（５）
クレオール

岩田英哉

１９８０年代に箱根に籠つた後の安部公房の思索の対象となつた大きな主題は、全集収録の関連する作品と『もぐら日記』を読むと、次の三つです。

１。言語
２。分子生物学
３。動物行動学

後の二つも、最初の言語の問題の中に実は含まれてゐることが、次の論考を読むと解ります。言語とクレオールについて集中的に語つてゐるのは、この二つです。

１。シャーマンは祖国を歌う—儀式・言語・国家、そしてDNA（全集第２８巻、２２９ページ）
２。クレオールの魂（全集第２８巻、３６６ページ）［註１］

［註１］
同じクレオールについての論が、ピッカートン著『言語のルーツ』といふ著作との関係でピジン語を論じながらなされてゐる『異文化の遭遇』（全集第２８巻、３３６ページから最後の３３８ページ）がある。

また、これほどの深さではないが、政治と文化をめぐる存在の師石川淳と対談に『言葉・文化・政治』がある（全集第２５巻、４６５ページ）。これは三島由紀夫と川端康成の四人で世に発表した「文化大革命に関する声明」（第２１巻、１５ページ）に関する言及で対談が始まる。

この声明と此の対談と、そして上記の言語論を詠み合はせると立体的に此の作家の言語観、小説観、人間観をよく知ることができます。

分子生物学は、言語学、ことに安部公房の好のむチョムスキーの生成変形文法に大いに関係して、人間の言語能力は後天的な学習によるものではなく、先天的な遺伝子に組み込まれてゐるプログラムであるといふ自説を展開するために必要とし、またローレンツの動物行動学は、刺激と反応の問題として、動物と

いふ人間の言語のない生物の条件反射的な自然のプログラムを、言語のプログラムと比較考証するために必要としてゐるものです。必要といふよりは、安部公房の仮説を構築するために必要な構成要素といふべきものです。さうして、やはりいつもの通り、安部公房の思索は言語を中心にして巡つてゐる。

安部公房の言語に関する興味は随分早い時期からのことでした。全集第８巻の「贋月報」によれば、「条件反射—柾木恭介（元「現在の会」、「記録芸術の会」会員）」と題して、次の回想がある。

「五〇年代の中頃かな、茗荷谷にいたときに彼が条件反射というのをやっていて、犬を集めておまえも一匹もって条件反射の研究しなつて、で、僕が貰ったのはちび黒っていうんだ。真っ黒いちっちゃい犬を、僕は自転車の後ろに積んで帰った。育ててパブロフ流に訓練しようとするけどぜんぜん駄目で…。その頃やっていたんですよ、条件反射をね。
　条件反射学会っていうのに行ってたんです。学会員だったんです。条件反射になぜ関心があるかというと、言語っていうことを…（略）
　ようするに言葉っていうものをどう考えるか。それまでに言葉を何か神秘的なものとする考え方があって、そうじゃなくてもっと科学的に捉えるってことからやらなきゃ駄目だって、それで、条件反射って事になるんです。これを勉強しないとこれからはアバンギャルドも何もないってわけで始めたんです。
で、僕に法政の先生の所に行って勉強してきてくれって訳で、彼、忙しいから駄目だって。僕は一年は行かなかったけども六ヶ月位行きました。
（略）
　僕らが五〇年代の終わりに条件反射を始めた頃には、本がほとんどないんですね。パブロフの書いた［条件反射学］っていう本が創元社の創元文庫から三冊本で出ていて、それが読むことができる唯一のデータだったんですけど、その本を頼りに僕らは作ったんです。木々高太郎［註２］という探偵小説書く人がいたんですが、彼の本名が髞［はやし たかし］といって、彼がパブロフを日本に紹介したんです。慶応の医学部を出ていてね、翻訳したんです。木々は探偵小説、安部公房はアバンギャルドだけど、二人とも条件反射に惹かれたんですね。そして、二人とも遡っていくとポーなんですね。」

［註２］
「木々 高太郎（きぎ たかたろう、1897年〈明治30年〉5月6日 - 1969年〈昭和44年〉10月31日）は、日本の大脳生理学者・小説家・詩人。医学博士。本名は林 髞（はやし たかし）。山梨県出身。」（https://ja.wikipedia.org/wiki/木々高太郎）

さて、この柾木恭介のいふ上記引用文にはない所でいつてゐるパブロフの条件反射学説について「パブロフは第二信号系っていうのが、たぶん言語の基礎をなしているんだろうって。それ以上のことは言っていないんです。」とある科白の通りに、箱根に隠棲時代にも此のパブロフの「第二信号系」について何度も言及して、人間の言語の世界の発生についての考察の素（もと）としてゐる。

さて、以上のことを前提に『クレオールの魂』を読みながら、安部公房のクレオール論をまとめてみませう。

まづ、この題名ですが、安部公房が魂といふ言葉を使ふときには、共産主義が念頭にあるといふことをいはねばなりません。しかしこの共産主義は『安部公房と共産主義』（もぐら通信第２９号）［註３］で論じたやうに、世に流布する通俗的なマルクスに発する共産主義ではなく、渡辺広士といふ評論家の安部公房論での使ひわけに従つて使ひ分けることで一般的な共産主義と区別していふならば、コミュニズムを念頭に置いてゐるといふことです。少し『安部公房と共産主義』より引用します。安部公房の共産主義は全然さうではない。

「何故安部公房は日本共産党に入党したのでしょうか。1950年代の文章を読むと、日本共産党の党員になった動機と目的は、次の4つが挙げられます。

(1)典型的な人間としての詩人の意識と無意識の個人の在り方を、社会と人間の抑圧と被抑圧の関係にまで拡張して考えたこと。
『詩と詩人(意識と無意識)』(全集第1巻、104ページ)で確立した人間の典型としての詩人の意識と無意識の境域に在るその意識・無意識の在り方を、社会と人間の抑圧と被抑圧の関係にまで拡張して考えたこと。『シュールレアリスム批判』(全集第2巻、260ページ)と、もぐら通信第15号の『安部公房の変形能力14:シュールレアリズム』を参照下さい。

(2)生という混沌たる現実の背後に法則を見つけようとしたこと。
『文学における理論と実践』(全集第4巻、314ページ。1954年6月30日)

(3)言語の観点から、文学における理論と実践の統合を考えた事 『文学における理論と実践』(全集第4巻、314ページ。1954年6月30日)。これは、 (2)と表裏一体の関係にあります。 大変興味深いことは、このエッセイで、この時点でマルクス主義に決別することを考え、同時 にそのことに迷い、悩みながら書いた『文学における理論と実践』で引用するレーニンとマルクスとスターリンの

言葉は、みな言語に関するものであり、言語の観点からのものであることからも、安部公房は、共産党に対しても、その言語観の証明と実現のために接近し、急激に左傾化して、その党員となったということが判ります。 同じ考え、すなわち言語の側から考えるということは、『文学理論の確立のために』でも述 べられています(全集第3巻、229ページ、1952年6月10日)。

(4)日本の国に、言語の側から、革命を起こしたいと思ったこと
『〈人物カルテ〉『社会新報』の談話記事』(全集第15巻、480ページ、1962年3 月11日)。また、『偶然の神話から歴史への復帰』(全集第2巻、337ページ。195 0年8月)参照。 池田龍雄の『詩的発明家---安部公房』(『安部公房を語る』、あさひかわ社、144ページ) によれば、安部公房は、この言語の側からの革命のシナリオを思い描き、革命が1957年に起きると本気で、そう考え、思い込んでおりました。

[註23] 安部公房がこのことを池田龍雄に暗い小声で話したのは、間違いなく1955年2月25日以前の時点です。

つまり、以上4つのことを一言で言うと、言語の観点から現実を捉えようとしたということ、そして自分の言語観の正しさを現実の時代の中で実践的に証明しようとしたこと、そして、その正しさによって革命、即ち日本人の意識の根本的な変革を起こすことによって現実を実際に根本から変革しようとしたことが、安部公房入党の動機です。」

魂といふ言葉を巡つて、安部公房は『文学における理論と実践』に次のやうに書いてゐます。

「スターリンは、「作家は魂の技師」であると言ったが、魂の技師であるということは、魂を変革するものということではないだらうか。ところで、パヴロフの学説によっても明らかなように、魂は肉体に従属し、物質の運動にほかならない。とすれば、当然、魂の変革は自己目的的なものではなく、物質の変革の一部であるべきであり、外部の変革のための、主体的条件の変革として、現実変革の実践に従属するはずである。
　言いかえれば、魂の技術であるリアリズムは、本来的に変革の能動性、認識の党派性を前提にするものだと言える。
　ところで、技術というからには、魂の法則を知りつくし、それを支配しなくてはなるまい。（略）」（全集第４巻、３２０ページから３２１ページ）

［註１］
『安部公房と共産主義』（もぐら通信第２９号）のダウンロードは：https://bit.ly/3JL6D4B

この言語認識と表現と実践的な行動の関係、即ちそのやうな人間としてある技術者を描いた作品が、コミュニズムと安部公房の十代からの超越論の融合を図つた『飢餓同盟』です（もぐら通信第９８号）。『飢餓同盟』論にて詳細に論じました。ダウンロードは：https://bit.ly/3QCMRLb

さて、これが「クレオールの魂」と安部公房のいふ時の魂の意味です。この魂といふ語彙の選択には、既に１９５０年代からの柾木恭介と一緒に研究した、それも犬を実際に飼育しての、パブロフの学説の理解と第二信号系に関する考察と学説の応用の経験が、文字にはなつてゐませんが、含まれてゐるのです。ですから、安部公房が言語を論ずる場所では必ずパブロフの名前が出てきますし、生前文字ではまとめることをしなかつたパブロフの第二信号系であるか、またはこの概念を更に安部公房が独自に発展させ洗練させた「言語プログラム」と呼ばれるプログラムとして話が展開されるのです。

『クレオールの魂』はピッカートンの著作『言語のルーツ』に触発されて書かれたものです。その論には上記の意味でのパブロフと一緒に、安部公房によるバイオ・プログラムの関係が、次のやうに述べられてゐます。

「　言語能力のバイオ・プログラム説は、なにもピッカートンが最初の提唱者ではない。すでに大脳生理学者のパブロフが、その晩年に、一般的条件反射を基礎にしたもう一次元高い条件反射が言語化もしれないといふ仮説を立てている。遺伝子が解明される以前のことだから、遺伝子という言葉こそ使われていないが、言語の基礎を生得的な生理現象（無条件反射）に置こうとしたことで、バイオ・プログラム説の先駆者とみなしてもいいだろう。」（全集第２８巻、３７１ページ上段）

この文章に続けて、安部公房は更に動物行動学のローレンツと言語学のチョムスキーの名前を挙げて次のやうに続けてゐる。

「動物行動学者のローレンツも、動物行動を律している閉ざされたプログラムに対する開かれたプログラム、あるいは古いプログラムを切断した新しいプログラム、言いかえればプログラムをプログラムするプログラム、として言語を規定している。また生成文法のチョムスキーは、言語の構造の追求から可能ならしめている能力は生得的なものでなければならないと主張した。言語学者であるピッカートンは、当然のことながらチョムスキーの強い影響下にある。」（全集第２８巻、３７１ページ上段）

このやうに、安部公房の言語論と科学の関係論には、言語がバイオ・プログラムであるといふ仮説の上に、大脳生理学者パブロフの条件反射説の自然のままの動物にとつて閉ざされてゐる生理的な条件反射から一次元上の第二次信号系への変形、チョムスキーの生得的な普遍言語構造論である生成変形文法、ローレンツの動物行動学、そしてこの論考を書かせしめたピッカートンのピジン語とクレオール語に関する考察論が、結晶してゐるのです。

ここでピジンとクレオールの関係を簡単に説明してをきます。

ピジン語とは、個別言語の文法の上で外国語の語彙を入れ替へて話す言葉のことです（例：I・お前を・loveだよ。）。文法構造は変はらない。

クレオール語とは、単なる語彙の入れ替へによる表層的な言葉の発声ではなく、それまでの其の土地の母語を離れて、異言語の話者たる複数の民族や人種が交流した場合に子供の代に生まれる、文法構造を新しくした個別言語のことをいひます。安部公房はハワイの言葉を例に、詳しく此のクレオール語の発生を考察してゐます。

そして、安部公房はチョムスキーの普遍文法を援用して、これらの世界中にあちこちある個別のクレオール語に共通した普遍文法のあるといふ可能性に非常な関心を示してゐる。特に、ハワイでの親たちの代に生まれたピジン語について、「ピジン崩壊の後のクレオール再生も、事情は似たようなものだったはずだ。」といふ安部公房の一行は、安部公房の廃墟好き、廃墟嗜好を私たち読者に思はせて（例：『方舟さくら丸』や安部公房の撮影した廃墟やゴミ捨て場の写真）、安部公房の文学の何か本質的な淵源を私たちはこの「クレオールの魂」論に観るのです。

何かの崩壊からの再生、破壊や破滅や廃墟やゴミや便器凹（の形象）からの再生といふ此の安部公房の非常に深いところから湧き出て来るいはば逆転の発想は、実は数学的には此の作家の深く愛好したトポロジーの論理であるわけですが、１９５０年代および６０年代に非常に流行した用語をここで思ひ出せば、故郷喪失の文学とか前衛・アヴァンギャルドとかいはれて、安部公房を囃し立てたものでした。世の中とは常に通俗に理解をして流行語の共有で終はり、本当にその文学の本質を認識することは極めて少ない。後年、また時代が移つた時に其の作家の藝術活動の本質が世の人の現実になつた時にはそれが当たり前になつてゐますから、誰もその作家に感謝しない。これが一流の藝術家の運命です。

既述の開かれたバイオ・プログラムといふことから、安部公房の筆は脳の左脳

と右脳の働きについて及び、『シャーマンは祖国を歌う—儀式・言語・国家、そしてDNA』に盛んに出てくるアナログ変換とデジタル変換に話が行くのです。言語は開かれたバイオ・プログラムだといふ安部公房の言語観が、理解の要点ですから、このことだけを覚えてをいてください。さうすれば、安部公房のなす言語論や国家論についても十分にあなたはついて行くことができます。

さて、これらの最後に、そして安部公房の書いたクレオール論文の最後に、安部公房は誠にこの作家らしく、もぐらの形象とクレオールの魂の関係を次のやうの述べて締めくくるのです。いや、穴を掘り始めるのです。今でも十分過ぎる位に通用する文章です。

「バイオ・プログラムとして言語を約束された人間、伝統に歯向うことを生得的に運命づけられた人間が、こんな儀式過剰の世界に甘んじていられるわけがないだろう。外では最大規模にまで肥大した国家群が、辺境の隅々にまで監視の目を光らせ、異端の侵入を拒みつづけるつもりなら、伝統拒否者は足元の地面に穴を掘りはじめるだけの話である。たとえばカフカやベケットのような先例もある。伝統からはかぎりなく遠い、クレオールの魂を思わせる中性的な文体で地面を掘りすすんだ作家たちだ。だからこれからは書物の時代なのかもしれない。内なる辺境への探索には、なんと言っても書物がいちばんだろう。
　人間の脳は欲が深いのだ。　　［1987.2.24］」

「外では最大規模にまで肥大した国家群が、辺境の隅々にまで監視の目を光らせ、異端の侵入を拒みつづけるつもりなら、伝統拒否者は足元の地面に穴を掘りはじめるだけの話である。」といふ箇所は、この１９８０年代後半に書いてゐながら（このとき安部公房は隠遁者であつた）、２１世紀前半の今の世界的なIT技術を保有する大手国際企業による極左・共産主義・グローバリズムの跳梁跋扈する時代にも充分すぎる位に、私たち読者のために、生き生きとしてゐる。いづれ、安部公房のメディア論を論じたいと考へてゐますが、その論の質の高さもまた、この言語論によつて既に保証されてゐるのです。一度冒頭に紹介した二つの言語論を読んでみて下さい。何故なら、「これからは書物の時代なの」であり、「内なる辺境への探索には、なんと言っても書物がいちばんだ」からです。

最後にもう一つ大事なことを。

このクレオールの魂を持つた安部公房が１９７０年代に創造したコミュニティが、安部公房スタジオでした。『マルテの手記』の主人公の一員である其の移動する、赤の他人からなる贋の家族、それもニュートラルなクレオール語を肉体と精神、体と魂で共有する、奉天で公房少年の夢見たサーカス一座です。この安部公房サーカス一座の俳優たちは、実は、少年安部公房に夢見られた者たちだつた

のではないのだらうか。だから、舞台が主体で、脚本が客体になつた。だから、安部公房は「クレオールの魂を思わせる中性的な文体で」表現することを、即ちニュートラルの中性の演技を、役者たちに要求した。役者たちに要求したものは、安部公房と同じ「クレオールの魂」とクレオール語を共有してもらふことであつた。

『都市への回路』論

（１４）

（２）演劇について

②演劇の現代

③夢と俳優

岩田英哉

目次

（１）小説『密会』をめぐって[聴覚の小説『密会』]
①病院という舞台
②強者と弱者
③逆進化の逆説
④現代小説の陥穽
⑤マルケスとポー

（２）演劇について
①アメリカの『友達』
②演劇の現代
③夢と俳優
④デジタルとアナログ

（３）写真について[視覚の小説『箱男』]
①写真について
②覗きの構造
③廃棄物
④盗聴とセックス

（４）音の領域
①音楽の時間
②抒情の効果

（５）都市に向って
①花田清輝
②国家と暴力
③都市に向って
④祭りへの不信

青字がこれまで論じて来た項目、赤字が今回論じる項目、黒字はこれからのものです。

＊＊＊

②演劇の現代

インタヴュアーの質問が、安部公房劇の上演のアメリカでの受容と作劇術のあり方の話から、続いて安部公房の演技論または俳優論の話に移ります。それが、一般的な「現代の演劇」ではなく、安部公房特殊の「演劇の現代」といふ見出しの意味です。

インタヴュアーは次のやうに話を始めます。この俳優論に関して引用されてゐる言葉を読むと、読者はすぐに、ああ、これはニュートラルのことだとわかるでせう。そして、このインタヴュアーは安部公房の演技論を正しく理解してゐることが次の質問でわかります。

―そこで、やや立ち入った質問になりますけれども、近年の安部さんは、俳優が単なる筋の運び手、イメージの伝達者であってはならず、表現そのもの、イメージ自体であることを求められる存在である、ということをしきりに主張しておられますね。安部さんはそのことを「俳優は夢見る者ではなく、夢見られる者でなければならない」という言葉で要約しておられる。その裏には、夢も俳優の織りなす舞台も、イメージが生理的なものに裏付けられているという認識があると思うのですが。

この言葉に対して回答する作家の言葉は、ニュートラルといふ概念の説明そのもので、生理的な五つの感覚と其の感覚に触発されて生まれたイメージを、何か原因に遡つて其の意味を因果律で考へやうといふことを安部公房は否定して、そのやうな時間の順序で理屈を考へ音の解釈をするのではなく（例：ああ、この音は田園だとか嵐の音だとか）、それは其の感覚によつて生理的に触発された音ならば音そのものが大事なのであり、その音自体が起点であり出発点なのだと唱へるのです。ここで大切なことは、音を時間の中で聴くのではなく、時間を捨象して因果律を離れて、一種の点として、ですから、音を粒子の連続だと安部公房は考へてゐるといふことです。さうであれば、安部公房のこの音と音楽の生理的次元での理解をデジタルとしての音といひ、通俗的に音に意味を現実との対応物を見出して原因に遡る音解釈を、因果の連鎖の波として連続的に考へる考へ方をアナログとしての意味を付加された音といふことができます。安部公房の音楽論は、かうして、演技論です。

この演技論は音を聴いた瞬間の其の音一点にをめぐる安部公房の考へですから、そこに何か意味があるわけなのではなく、その一点の音のあなたに喚起するイメージまたは形象こそが大切なものなのであり、その音とそのままに享受するといふことのできる音楽を「純粋な音楽」と呼んでゐます。このやうに言

つてゐる箇所が此れです。

「いま自分の耳にその音が届いているという、その瞬間が発想の起点になっているということだ。だから純粋の音楽というものは、音楽として何を表象しているかということを考えたり、理解したりしなくても享受することができる。」（全集第２６巻、２０８ページ）

安部公房が純粋なといふ形容詞を使用するときには、このやうに常に時間を捨象して因果の連鎖では物を考へない、即ち原因と結果などといふ二項対立を超越して求める（超越論によつて知る）第三の項、即ち存在を意味してゐます。安部公房の存在論の記号を使つて《存在》と書くことにしませう。これをまた別の文脈では「時間の空間化」と呼んでゐる。この「時間の空間化」は、舞台論でも小説論でも同じ意味で使つてゐます。後者即ち小説にあつては、安部公房特有のあの独特の生理的感覚を読者に喚起する直喩をふんだんに使つた文体を思ひ出してください。このやうにして、安部公房の言葉と論理を借りて、安部公房のあの文体は純粋な文体と呼ぶことができます。

安部公房全集を読みますと、安部公房が此の純粋といふ言葉を冠した言葉には次のやうな非常に限られた例があります。『安部公房と共産主義』（もぐら通信第２９号）で詳述したものですが、ここで要約してお伝へします。

（１）リルケの純粋空間
（２）ナチスの純粋制服
（３）バロックの純粋音楽（特にバッハの音楽を好んだ）
（４）『詩と詩人（意識と無意識）』の純粋主観・純粋客観

（１）リルケの純粋空間については、リルケの『オルフェウスへのソネット』を読み解いた「リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む」をお読み下さい（もぐら通信第５６号から第１１１号まで）。「リルケの『オルフェウスへのソネット』を読む （３５） ：第２部Ｘ ~安部公房をより深く理解するために~ Ｘ」の第４連から引用してみませう（もぐら通信第９２号）。ここに言葉と音楽との関係が示されてゐる。これがリルケのいふ時間を捨象した純粋といふ概念です。

「言葉は、まだ柔らかく、言葉では言い得ぬものを頼りにして、外へ出てゆく... そして、音楽は、いつも新しく、最も激しく震える(複数の)石の中から 実用を離れた空間の中で、その神聖な、荘厳された家を建築するのだ。」

（２）ナチスの純粋軍服が何を意味していたかは、『もぐら感覚２２：ミリタリィ・ルック』をお読み下さい（もぐら通信第２７号及び第２８号）。
蛇足をいひますと、２０世紀に流行した共産主義的な安部公房文学前衛論またはアヴァンギャルド論では、何故安部公房はナチスの軍服に美的な純粋性を見てかう呼んだのかの説明がつきません。何故なら、安部公房は共産主義を否定する超越論に立つてゐるからです。イデオロギーで、この作家を理解することは、当たり前のことですが、できません。

（３）バロックの純粋音楽については、ドナルド・キーンさんとの対談『反劇的人間』をお読み下さい（全集第２４巻）。また、バロック音楽については、ドナルド・キーンさんとの対談で、次のように述べています。同じ『安部公房と共産主義』（もぐら通信第２９号）より引用します。

「『演劇と音楽と―バロック風にバロックを』：全集第２５巻、３５０ページ上段段から３５１ページ上段。この戯曲は『ウェー』です。１９７５年、安部公房５１歳。

「この芝居のなかにも、ちょっとFM放送が出て来る。もちろん曲はこちらで選んだものだけ どね。バッハです。静かなチェンバロの曲なんだけど、べつに静かなバッハ的な場面に使う わけじゃない。むしろ逆だな。ひどく滑稽で気違いじみた場面に使うんだ。「ウエー」というのは、人間そっくりで、しかし人間じゃないという触れ込みの奇怪な珍獣でね、それが本物か偽物かをテストする場面、靴下の洗い水を飲ませてみるとか、いくつかそんな場面があるんだけど、その中の一つのバックに使ってみた。うまく合うんだね、これが。合うという より、互いに矛盾するものが衝突しあって、残酷なポエジーというか、実に不思議な効果をあげるんだ。」

「一流の音楽同士は、どうしたって矛盾しあう。その矛盾するものが衝突しあって、加え算ではない、掛け算的な効果を可能にしてくれるんだな。」

「使いやすいバロック

そんな使い方をしようとすると、こんどの「ウェー」に限らず、不思議にバロック音楽が使いやすい。なぜだろう。バロックというのは、あんがい、音楽の中で、いちばん純粋な構造を持って入るんじゃないか。純粋というのは、文学だ

とか、演劇だとか、美術だとかいった、音楽以外の要素を含んでいないという意味。だから、舞台の上でも自立しやすいんじゃないかな。舞台には、言葉も、肉体も、美術も、ぜんぶそろっていますからね。音楽に今さら肩がわりしてもらう余地はないんだ。バロックというのは、ある意味で、もとも音楽的な音楽なのかもしれないという気がする。極論すると、現代音楽の一部をのぞいて、バロックは音楽史のなかに築かれた純粋音楽のピラミッドだったのかもしれないね。」

これが、安部公房の純粋な藝術、安部公房は自分ではそうは呼ばなかったけれども、その意を汲んで敢えて呼べば、純粋藝術というべき安部公房の総合藝術のこころでありました。

様々な構成要素が、それぞれ自律的に単位として相互に矛盾しながら、陰画のポエジー(詩情、詩想)としてその全体を構成して、まとまるということ、これが安部公房の意図した舞台であったということ。また、映画や記録藝術に求めた考えたかたであったということなのです。」

（４）詩人の典型の認識する無意識裡の主観と客観の純粋性については『詩と詩人（意識と無意識）』（全集第１巻、１０４ページ）をお読み下さい。ここで安部公房は純粋主観および純粋客観を「第三の主観・客観」と呼んでゐる（同巻、１０６ページ下段）。

さて、このやうに「そういう直接的なつながり方というものが、舞台を見る場合も音楽を聴く場合と同じように伝達の基礎なんだ。ま、現在進行形の起点だね。俳優が起点になっているということが舞台芸術の基礎なんだ。その上に、もちろん言葉もつかうし、人間の動きだからそこにおのずと因果関係というものが類推されるし、一種の物語がそこから展開するということが十分にある。しかしそれは、その空間だけに固有な因果律であって、対応する現実が外に存在する必要はないんだ。」

これが、安部公房の舞台論、俳優論であり、そのまま小説の文体論であることがお解りでせう。イメージが現実の世界の何かのものと対応関係を持つ必要はないし、むしろ持たないものの方が人間の意思疎通のための伝達の基礎として純粋であり、その純粋なる基礎が伝達の用をなすべきだといふのです。これを学んだリルケのことを、リルケは世界であると言ひ、対して、ポーは文学だと言つたのです。リルケは上記のやうな形象の創造者であり、その世界は自律し

独立してゐて、他のものに変へ難い唯一無二の世界であるのに対して、ポーは散文であり、小説であつて、前回の論でみたやうに世界普遍性な、構成要素を国々での要素に取り替へても通用して上演され得るる論理的な構造を備へてゐる。

③夢と俳優

さて、かうして語られる舞台論と俳優論から、安部公房は、普通に考へられてゐる台本があつて舞台があるといふ順序をtopologicalに位相幾何学的に等価交換して、舞台があつて台本があるのだといふ考へを披露します。役者が夢みられるものでなければならないとしたら、その役者が演ずる舞台こそが主体であり、台本は客体であるといふ考へ方に至るのです。役者を主体に教へて指導したニュートラルといふ概念を、今度は舞台と観客といふ次元に一つ上げてみたらどうなるか。同じではないかと安部公房は述べてゐるのです。そして、台本作者の実感としても、実際にさうだといつてゐます。

これが安部公房スタジオの後半１９７５年以降の舞台であり、その詩的な形象の舞台は『イメージの展覧会』と題して連続的に上演されました。この思想は、本当に安部公房らしいと私は思ひます。

「　だからいま僕は、まず台本を書き、それにそって舞台をつくるという方法に、だんだん抵抗を感じ始めた。むしろ舞台が先にあって、その舞台のイメージを織りあげてゆくために、台本というものが補助手段として必要になってくる、そういう感じなんだ。
　僕は、演劇というものの起源というか、演劇をつくるという衝動の起源は、台本ではなくて舞台だと思う。（略）だから、台本という補助手段を用いることで、その舞台の構造がより濃密になり、複雑になり、立体的な構成をもっていくという、そういうことのための台本という感じがする。」（全集第２６巻、２０８ページ下段）

この舞台を現実と置き換へれば、この論理はそのまま現実と安部公房の小説（仮説設定の文学）の関係になります。

さて、このやうな舞台を産み出す役者と夢の関係、または夢と役者の関係は次のやうな関係になるのです。この関係のバランスの中心を安部公房は「時間と空間の交差点」と呼び、またニュートラルと呼んだのです。

「夢のいま一つの特徴は、イメージを紡ぎ出す原動力が、概念よりもはるかに強く生理的なものに負っている点だろう。（略）
　たとえば俳優の訓練に際しても、この原理をそっくり応用するとができる。それは俳優が単なるイメージの伝達者ではなく、イメージ自体であることを求められる存在であるかfらだ。俳優は夢見る者ではなく夢見られる者でなければならない。俳優は夢の論理で自立しなければならないのである。」
（『ゴム人間のことなどー周辺飛行１５』全集第２３巻、３９９ページ下段）

（続く）

ＳＦで思考するための本棚
（７）
古事記SF論（２）

岩田英哉

安部公房の文学は仮説設定の文学だといふ一般論に戻つて考へたい。

この場合、安部公房の論理は普通の人の論理とは異なり、普通の人は、ないものを想定して、

これがあつたら、世の中はどうなるだらうか？

といふ発想であるのに対して、安部公房の発想は、

これがなかつたら、世の中はどうなるだらうか？……【A】

といふ発想なのです。即ち、

あるものを規準に考へるのではなく、ないものを規準に考へる。そして、このないものをあるものとして設定して（これが安部公房の仮説設定といふこと）、真実の虚構を生み出す（これが文学の営為といふこと）。

そして、上記【A】を更に次のやうに展開する。

この無いものが存在したら、世の中はどうなるか？……【A’】

安部公房の案内人は皆、失はれたものであるといふことをもう一度ここで思ひ出して下さい。この実例の列挙はかつて『安部公房の奉天の窓の暗号を解読する～安部公房の数学的能力について～(後篇) 』（もぐら通信第３３号）より引用します。あるいは戯曲『幽霊はここにいる』を思ひ出してもよい。

「さて、前期20年の案内人は、次の通りです。

(1)手記(実は存在しない):『終りし道の標べに』
(2)名刺(失われた名前の書いてある):『S・カルマ氏の犯罪』
(3)とらぬ狸(存在しない):『バベルの塔の狸』
(4)ニワハンミョウ(一度取り逃がして失った):『砂の女』

(5)損傷した顔(失われた):『他人の顔』
(6)依頼人の夫(失踪した):『燃えつきた地図』

後期20年の案内人は、次のようになるでしょう。

(1)箱男(失踪した男)の書いた箱の製法のマニュアル:『箱男』
(2)救急車に誘拐された妻(失踪した女):『密会』
(3)ユープケッチャ(無時間ー永遠ーに棲息する=存在しない):『方舟さくら丸』
(4)カイワレ大根(脚に生える=存在しない):『カンガルー・ノート』

これらの案内人をみると、みな予(あらかじ)め失われたものと一言でいうことができることに気づきます。

この「予め失われたもの」は、空間の中では上記の名前で、予め失われたものとして登場 しますが、時間の中では、予め失われた未来として「明日の新聞」と(最後に登場してそう)呼ばれ(戯曲『友達』、『密会』その他)、『第四間氷期』では、予言機械の予言と なり、その予言は物語の最後に目に見えない暗殺者の足音と化してやって来て登場し、『砂の女』や『箱男』や『カンガルー・ノート』の最後に失踪や死亡を告げる一枚の紙として 登場するのです。そうして、勿論これらの紙の媒体は、次の次元への案内人又は案内書と して、その上位接続点(積算値、即ち奉天の窓)、即ち十字路の交差点に立つ方向標識板なのです。 」

この安部公房の発想の型は、次のコンピュータの企業への導入がどのやうな変容を企業にもたらすかといふ予測についての発言の、普通の人とは反転した陰画の論理として、即ち「予(あらかじ)め失われたもの」を規準にした論理であることに気づきます。

同じ論理を東京電力の社長木田川さんといふ方との対談『コンピュータ時代にはどんな人間が強いか (1) 』（もぐら通信第１４１号）で次のやうに語つてゐます。安部公房の発言：

「(4)「いまから「コンピュータとは何か」ということの哲学的な意味を、はっきりつかまえておく必要がある」。

そして、最後の(4)の目的のための安部公房の発言もまた、「曇りガラスを透かして太陽を見る」といふ陰圧で現実を胸一杯に吸い込むS・カルマ氏の方法といふべき問なのです。

(5)そこで「コンピュータとは何か」ということですが、これは逆にいうと「コンピュータにできないものは何か」ということですね。」そして、その典型例として、翻訳と問題提起の二つを挙げるのですが、上述の通り、翻訳は既にソフトウエア・プログラムによつて達成されてゐるので、残るは問題提起といふコンピュータには出来ない仕事が私たちの仕事であるか、コンピュータにどこまで此れが出来ない可能性が論理的にあるかといふ吟味をすることになる。」

以上を要するに、「この無いものが存在したら、世の中はどうなるか？……【A'】」といふこの発想の型から生まれるのが、文学であり、もし殊更に特定の名前で呼びたければSF文学といふのであり、そのSF文学の中でも物理的な宇宙（外宇宙）ではなく、意識と無意識の宇宙として存在してゐる宇宙（内宇宙）を探究すべきだといふ（SF史でいふ）New Wave［註１］の主張に該当するものが、仮説設定の文学といふことになります。この安部公房の陰画の視点から前者即ち物理的な外宇宙のSF小説を眺めると、これらの小説は皆「これがあつたら、世の中はどうなるだらうか？」と問ふて書かれてゐる小説といふことがいへます。

［註１］
ニュー・ウェーブ (SF)：
「SFにおけるニューウェーブ（新しい波）運動は、1960年代に発生し、1970年代にかけて文学的、芸術的な形式と内容において実験的な作品を生み出した。その主張は運動を主導した一人であるJ・G・バラードによる「SFは外宇宙より内宇宙をめざすべきだ」に特徴づけられる。」
（https://ja.wikipedia.org/wiki/ニュー・ウェーブ_(SF)）

さて、このやうな発想の型をめぐつて、

これがなかつたら、世の中はどうなるだらうか？……【A】
この無いものが存在したら、世の中はどうなるか？……【A'】

といふ二つの論理の展開について、今たまたま『第四間氷期』をめくると次の箇所がありました。これは、主人公の内面の独白です。この【A】→【A'】への論理の展開を、安部公房の思考過程そのものとして、私たちは読むことができます。

「　だが、論理に人を殺したりできるはずがない……すくなくとも、私に死を命じたりするような論理など、成立つはずがない……この連中は、なにかひどい誤解をしているのだ……とはいえ、彼らの言葉を真にうけて、その論理と闘うために踏みとどまったというわけでもなかったようだ。」（同作品１３２ページ上

段、第３２章最初の段落）（傍線引用者）

論理が人を殺さなかつたら、世の中はどうなるだらうか？……【A】
この論理による殺人といふ無いものが存在したら、世の中はどうなるだらうか？……【A’】

これが、安部公房の仮説設定の文学です。

勿論、世に流布して広く読まれてゐる通俗小説の論理は、「これがあつたら、世の中はどうなるだらうか？」といふ問ひに答へるものです。この問ひが、といふことは、私たちの俗情のなせる、無いものねだりの論理といふことになるでせう。とすると、安部公房の文学に限らず、この種の思弁的な小説はみな実は純文学なのであり、且つそれらはみなSF小説と呼ぶに足り、また同時に、さうであるならば、これまでの考察によつて、普通の文学と呼ぶことができ、SF文学がそれまでの純文学を吸収して其の一部となして、文学全体の名前となつたといふことになります。それ故に、SFといふ特定辞はもはや不要であり、結局私たちはどんな奇想天外な物語であれ、ひとしなみに文学と呼べばよろしいといふ結論になりました。

これで、荒巻義雄氏の問ふ「二〇世紀文学は、SFを軸として再編成され得るだろうか――という想念」は、確かにその通りに再編成されて一つになりました。以前の段落を引用しますと、

「今、私の頭の中には二〇世紀文学は、SFを軸として再編成され得るだろうか――という想念がある。もし、それが可能ならば、SFを二〇世紀文学史の中に位置づけることも可能になるからである。」そして、このあとにSF文学史に残る「スウィフト、ヴェルヌ、ウェルズ」の名を挙げて、これらをいはゆる「世界文学史の傍流の系列」と位置付けて、即ち、やはり古典的な文学からみた世界文学史にあつても、上記３作家に始まる系列の文学であるSF文学を支流と見なされることに異議を唱へて、さういふ本流支流といふやうな分け方ではなく、独立した一つの文学範疇として「別のSF史を新たに想定」することを主張して、「繰り返すが、SF史とはただ一つではないのではないか。」と読者に問ふてゐる。あるいは、自問自答してゐる。」（もぐら通信第１５７号）

この安部公房の仮説設定の文学といふ文学概念は、いふまでもなくトポロジカルに作品の構成要素の価値を等価交換をすることによつて普遍性を備へてゐる概念ですから、荒巻氏のやうに殊更「SF文学を支流と見なされることに異議を唱へて、さういふ本流支流といふやうな分け方ではなく、独立した一つの文学範疇と

して「別のSF史を新たに想定」することを主張して、「繰り返すが、SF史とはただ一つではないのではないか。」と読者に問ふことは、もはや不要となり、日本のSF文学は世界普遍性を備へてゐて、「スウィフト、ヴェルヌ、ウェルズ」らと同列のまま、日本文学は世界文学史の日本語による一部門として日本語による世界普遍性を備へて確立してゐる。

さて、その次の問ひは、それでは、このSF文学といふ文学と神話の関係を如何に考へたら良いのか？といふ問ひであり、この問ひに答へることになります。何故なら、この論は古事記SF論だからです。

（続く）

遁走倶楽部

（２）

エピチャム語から本邦初の翻訳

作者　S・カルマ氏

翻訳　岩田英哉

目次

01_デアンダール岩の祝祭
02_カフェ・セラピオンの読書会
03_町の地図（或いは幕の内弁当に関する考察）
04_虚体祭
05_堂宇の殺人
06_コギト革命
07_ほとさらい
08_黄金の時代精神亭での酩酊
09_書記の部屋

＊＊＊

第５章　堂宇の殺人

（待て次号）

日本一極国家論（続篇）

GAME CHANGE理論

（７）

岩田英哉

目次

１。前編
２。後編
３。GAME CHANGE理論
（１）古いゲーム・ルール：アメリカと中国の共通性
（２）古いゲーム・ルール２：アメリカのゲーム・ルール：一般論
①文化：無制限の大衆化・通俗化文化：「いつでも・どこでも・誰にでも」（例：コカコーラ、ジーンズ、コンビニエンス・ストア、クレジット・カード、ディズニーランド等々）
②政治：自作自演の詐欺的言辞を弄する：世界普遍性を欠いたアメリカ土着の民主主義の他国への、謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制
③経済：道徳を欠いた国際金融資本主義、いはゆるグローバリズムといふ名前の共産主義経済の他国への謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制

新ゲーム・ルール
対アメリカ帝国：
（１）新ゲーム・ルール１（アメリカ帝国向け）：一般論
（２）新ゲーム・ルール１.１（アメリカ帝国向け）：個別論
①文化領域
②政治領域
③経済領域

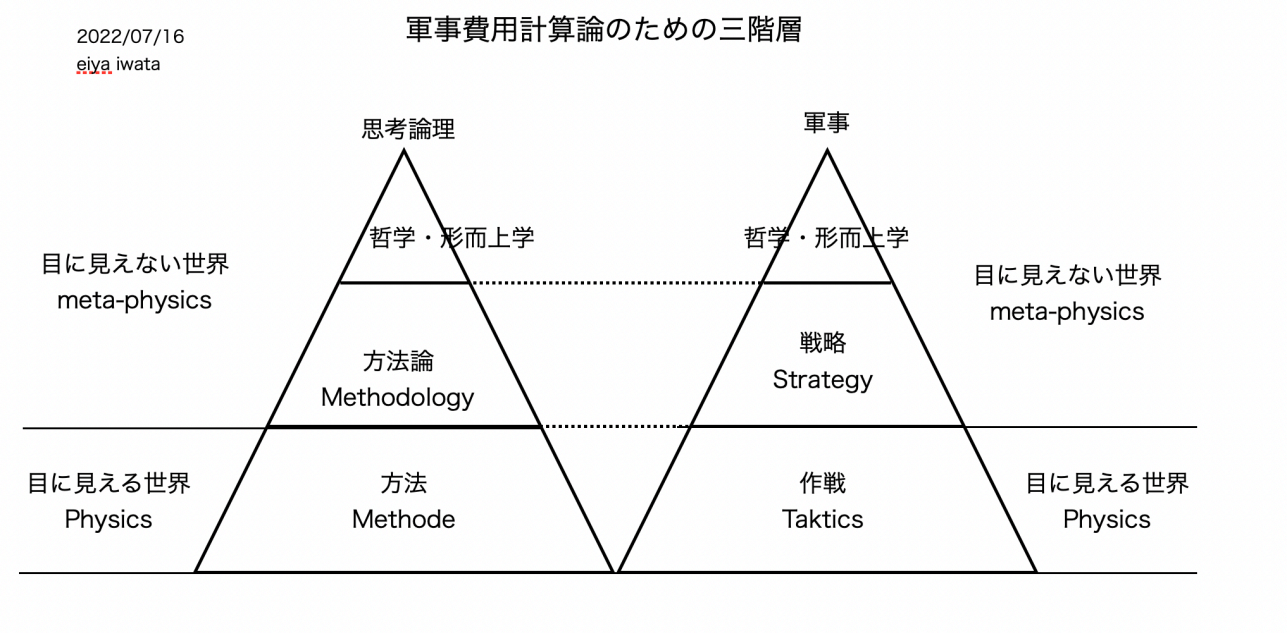
対中華帝国：
（３）新ゲーム・ルール２（中華帝国向け）：一般論
①支那とは何か中国とは何か
②中国の経済の構造
③中国の政治の構造
（４）新ゲーム・ルール２.１（中華帝国向け）：個別論

対ロシア帝国：
（５）新ゲーム・ルール３（ロシア帝国むけ）：一般論
（６）新ゲーム・ルール３.１（ロシア帝国むけ）：個別論

４。GAME CHANGE理論（日本篇）
４.１.１　国民にとつて理想の政府とは何か
４.１.２　現行日本国憲法無効化論
Intermezzo：文明の衝突篇:：ハンチントン著『文明の衝突』からウクライナ問題を考察する
４.１.３　戦争空間領域分類論
４.１.４　日本国家軍事費用計算論
４.１.５　日本国家核ミサイル保有論
４.１.６　北朝鮮拉致被害者奪還論
４.１.７　日本駐留米軍退散論
４.１.８　日本中央銀行廃止論
４.１.９　尖閣諸島問題解決論
４.１.１０　竹島及び北方領土奪還論
４.１.１１　国体明象論（国体明徴論ではない）
４.１.１０　国制明象論（国制明徴論ではない）

［対ロシア帝国］の中身は2022/0312現在未定］

４.１.４　日本国家軍事費用計算論（２）



軍事費用計算論のためのピラミッド図を二つ再掲して、話を続けます。

軍事費用計算をするためには、次の３つの問いに答へてゐなければならない。

（１）戦争とは何か
（２）戦争の目的とは何か
（３）戦争の費用とは何か

この３つの問ひに一般的な答えを求めることができないのであれば、そもそも軍事費用の根拠が不明といふことになり、その計算は成り立たない。個別具体的に、費用項目を足し算しても、戦略を立てることができないので、軍事費用項目に優先順位をつけることができず、従ひ此処でも費用の計算ができない。といふことは、軍事戦略立案のもとになる費用の計算値とは、積算値を求めることに他ならないことになる。単にあれが足りないので必要とか（例：竹島奪還費用）、これがこの方面に必要（例；尖閣諸島の自衛隊配備費用）だ、などと個別に計算して其の合算をしても、国家としての軍事費用の総和になるだけであつて、それでは軍事費用の戦略的な計算、即ち積算値にはならぬといふことである。

上記再掲の二つのピラミッド図に照らしていへば、戦争のための戦略論は方法論、即ち戦争方法論であり、それが一般のものではなく個別のものであれば、個別方法論である（例：日本国家軍事戦略論）。また、その下にある作戦も同様の順序で考へることができる（例：竹島奪還上陸作戦論）。

これら二つの階層の上に位置するのが、哲学であり形而上学といふ目に見えない世界の価値に関する論理構築であるから、軍事に限っていへば、一般的・普遍的な哲学及び形而上学の基礎あることを前提にして、この上に軍事哲学または軍事形而上学を立てることができる。これが往々にして、特にヨーロッパ地域の戦争を歴史的に見ると、そのほとんどがカソリックを中心とする宗教戦争である理由がよく理解することができます。しかし、不思議なることに、日本の国内では、浄土真宗と曹洞宗が、同じ仏門でありながら、否、同じ仏門であるので、宗派が異なるといへども、またその理由で、宗教戦争など起きたことがないのである。あるいは、宗派戦争など起きたことがない。これは何故か。また何故ヨーロッパではキリスト教といふ宗教が原因であのやうに虐殺が繰り返し起きるものであらうか。

私の考察によれば、その原因は一神教といふ宗教の性格にあるのであり、そしてこの宗教の戦争を起こす論理上の矛盾も私は異教徒として十分に理解したので、後述する所に従つて（４.１.４　日本国家核ミサイル保有論＞４.１.４.１武器の本質と分類を参照）、もし軍事哲学とか戦争哲学と云ふ哲学を立てることになれば、そこでこの論理上の問題を論じたい。この宗教上の論理は、キリスト教に留まるものではなく、ヒトラーの率いたナチス然り、マルクスの唱へた共産党然り、その後の２０世紀のフランクフルト学派然り、その他今日に至るグローバリズムといふ名前の共産主義もまた然りなのである。キリスト教はグローバリズムであることを忘れてはならない。要するに二項対立の絶対肯定の世界です。

さて、以上のことから、上記３つの一般性のある問に一般性のある回答をする。それから、日本国家に固有の軍事的な事情を勘案して日本国家個別の軍事費用の計算をする。ここでも、

立論に際しての私の立場は徹頭徹尾、言語である。

１。戦争とは何か

言語の観点から結論を述べる。実は、言語の観点からみると、男女の性愛と国家間の戦争の生まれる元は同根なのです。二つは同じ根から生えてゐる。少し思ひを巡らせば、私事としての密室の中でおこなはれる性愛の交歓はたがひに言葉を必要とせず、もし言葉を発すればその言葉に服従する。沈黙と最小限度の言葉の語彙と量。言葉のみに依存しな状態。無駄な言葉のない状態。沈黙の世界。言葉があればそれに喜んで絶対服従する世界（極端なる性愛としての嗜虐的なサディズムとマゾヒズムも含む）。これが性愛の世界。対して公としての軍隊、公事（くじ）としての言葉に絶対服従する世界。そして言葉数が少な

ければ少ないほど良いといふ沈黙の世界。この両極端の間に饒舌で不服従であることも法的にも私的にも多々認められてゐてゐる喧騒の世界、即ち世の中とか世間とか社会とかと私たちのよんでゐる昼間の世界がある。このやうに、言葉の観点から二つの組織（二人ゐれば組織である）を眺めると、この二つは人間の究極の理想の組織である。

さて、それなら、戦争は夜の世界の出来事なのであらうか？然り、私事の性愛の秘め事が夜のものであるならば、公事たる戦争も夜の世界のものであり、さうであるが故に、戦争、それは公然たる秘事である。安部公房ならば、公然の秘密といふところであらう。このたびのウクライナ問題の勃発(２０２２年２月２４日)に関しての喧騒かまびすしい風評、揣摩憶測、誤謬の説の氾濫をみよ。饒舌であればあるほど、声が大きければ大きいほど、その説は公然たる秘密の開示に相当するのかと思はせる此れがプロパガンダであることが実に明瞭に見てとることができた。しかもこれをやらかすのが、自称他称専門家なのであるから始末に終えない。

さて、この私事も公事も、どちらも関係する情報は機密性の極度に高い情報であるといふ性格を有する。これが、性愛も戦争も夜の出来事である。といふことだ。

以上のことから、戦争は永遠に無くならない。人類と共に無くならない。それは、私たちの人間性に深く根差し、且つ私たちがそれを使って造つてゐる人間最大の組織である国家がそのやうに言語で経営され運営されてゐるからである。戦争はエロスと共になくならない。戦争は人間性と共にあり続ける。

従ひ、世界平和は妄想である。核廃絶などは妄想であり空想である。戦争は無くならない。それ故に一国は常に戦争に備へねばならない。上は核戦争（war）から下は紛争(conflict)または事変(incident)から市街戦（combat）から肉弾戦の人的戦闘（fight）に至るまで。戦闘（battle）は市街戦(combat)から人的戦闘(fight)までの軍事的または軍備的戦ひを含む。

これが、言語の観点から観た、戦争の本質である。さて、そこで、次は、

２。戦争の目的とは何か

言語の観点から戦争を観ると、その一番大きな目的は相手の国家との意思疎通の問題、即ちコミュニケーションの問題であり、このコミュニケーションの問題を暴力によつて勝敗の問題として決しようといいふことが、戦争を遂行する国家意志の最も極端な発現であり、外交の最も極端なる一部である。これは外交の一部であるが故に、国際法によつて戦争の法が定めれてゐる。この法に従ふ限り、どんな戦争も合法であり、非難されるいはれはない。この場合、どちらが戦端を開

いたのかも問題ではないし、何よりもこのたびのウクライナ紛争で現実によく知り得たことは、戦争に善悪はないといふことである。双方が共に自国の戦争を善であるといひ、他国の戦争を悪といふならば、戦争にどちらが善でありどちらが悪であるといふことはないことになる。どちらも戦争を善悪の彼岸で戦つてゐるのだ。だから、自分の戦争を正当化するために、勝利を宣言するには勝つ以外にはない。しかし、それは自国の戦争の善であり、他国の戦争の善ではない以上、自国の悪であり、他国の善であること、また他国の悪であり、自国の善であることは、論理上の可能性の問題として、戦争が終はつた後も、残されてゐる問題である。これを裁くことのできる第三者はゐない。従ひ、今回の紛争を極東からユーラシア大陸を遥か彼方に眺めると、仲介国・仲裁国としての第三者が必要になるのだと知られる。日本は愚かにも其の平和のために役立つ立場を、西欧米に同調して、初めから捨ててしまつた。俗称「平和憲法」をみづから踏みにじって、憲法前文を否定してみせたこの国の総理大臣は死刑である。

さて、私は戦争は国家間のコミュニケーションのことだと述べた。外交の極端なる一部としての戦争であるからには、それは外交である以上、内政の延長である。お互ひに内政の延長をして其処で衝突して、一体何を意思疎通しようとしてゐるのであらうか。いつもならば、Webster Onlineに伺ひを立てて引用をするところであるが、私が以前読んだ定義がなくなつて、もつと即物的な定義に改定を受けてゐた。以前の定義の方が素晴らしいので記憶の中からその定義を引用する。

コミュニケーションの定義
コミュニケーションとは、相手を自分と同じ状態にして、これを双方で共有することである。

従ひ、ここ２年世界的に流行したウイルスもまた、この感染によつてウイルスの状態を共有することになるのだから、これもまたコミュニケーションである。
と、以前のWebster Onlineのvirusの定義にはさう書いてあつて、今無いことは惜しまれる。あの人が４０度の熱を出したら、私も４０度の熱を共有するといふことである。そして、この場合の媒体または媒介がウイルスだといふことなのです。即ち、いふまでもなく、コミュニケーションには媒体または媒介（英語でも共に一語でmedium>mdeia）が存在してゐるし、ゐなければならない。これ以外の、メディア抜きで成立する意思疎通は、古今東西、直観と呼ばれる。これは個人の私事の技ならぬ技である。そして、従ひ、

人間の最大の組織が国家であり、その意思疎通のための媒体が其の国の言語であること、戦争(war)は国家間で行ふものである以上、これは内政の延長である外交の其の最も極端な形態としてある国家間コミュニケーションの一部、即ち、外交であるとすれば、此処で、この交差点で、戦争と平和はメビウスの環である。

そのメビウスの環の結び目では外交上の優位・劣位の問題のみならず、国内の内政の不調も和平への消極的な動機となる。これはウクライナ紛争が原因で対ロシア経済制裁で国内政治に不調を来した西欧米の姿を見れば明らかである。

しかし、そのメビウスの環の結び目に至るまでの間、当然に、敵対する双方の言語はプロパガンダとなり、物理層での暴力的な破壊活動と平仄を合はせて、論理層での言語表現も暴力的な破壊活動となる。これが戦争に合はせて知ることのできるプロパガンダの由来である。プロパガンダは暴力的であることを夢忘れてはならない。これは敵のみならず、自国の内国の国民の常識も、場合によつては精神も破壊するのである（例：第二次世界大戦でのドイツのヒトラーの演説をみよ）。これが２０世紀の二度の欧州を中心とした世界大戦から私たちの得た教訓である筈だ。同じ間違ひを、どんな理由で戦争が起きても、私たちは二度繰り返してはならない。其のために私は『ネット・モナド論』を書いてゐる。何故なら、戦時でかくあれば、平時でもかくあるであらうからだ。

さて、戦争(war)は国家間で行ふものである以上これは内政の延長である外交の、その最も極端な形態としてある国家間コミュニケーションだといふのであれば、実は、この外交である戦争は平和といふ結び目へと接続する、再度即ち、戦争と平和はメビウスの環である。内政の延長（extensiv）としてある即ち和算としてある総和（これが戦争の下位概念である紛争・戦闘・市街戦等々）が、双方の物理的延長の交差点または交接点で積算値になる此の、一次元上へ接続する其の一点の恒久的に安定した価値を求めて和平交渉が行はれる。だから、このやうに、繰り返すが、戦争と平和はメビウスの環なのである。

このメビウスの環といふ其の結び目をみれば、私たち日本の国は、これを個人ならば神社で御祓ひし、特に国家水準の穢れを祓ふ場合には大祓へと太古・古代より呼んで、２１世紀の現在に至るまで天皇・すめらみことといふ御存在の元、この哲学的・形而上学的結び目の結びとお祓ひは、御存在以下全国で執行されてきたのである。私たちは毎日無意識にでも何かを結んでゐる。国家ならば何を結んでゐるのであらうか。

これが、多くをここでは語らないが、我が国の世界に対して持つ超越論者、超越論国家としての圧倒的な、宗教上・政治上・経済上・文化上の、優位性である。このメビウスの環といふ私たちの数学的能力から生まれたtopologyの位相幾何学的な縄文原理は、次の戦争費用の計算論にも再出することであらう。

３。戦争の費用とは何か

戦争の費用には、時間の視点から考察すると、次の二つがある。この場合の時間とは直線的時間を想像して欲しい。即ち、過去・現在・未来である。さうすると、費用には次の二つがある。

（１）過去の失敗または損失を償ふひ、あるいは取り返すための軍事費用(recovery cost)。短く原状回復費用と呼ぶことにする。
（２）未来に予測し得る失敗または損失を予め防ぐための軍事費用(preventive costs)。短く予防費用と呼ぶことにする。

上記（１）に属する軍事費用(recovery cost)は、いふまでもなく次のものがある。

（１）北方領土奪還費用（敵はロシア）
（２）竹島奪還費用（敵は韓国）
（３）拉致被害者奪還費用（敵は北朝鮮）

この三例を見ると、この奪還費用には、奪還後の維持費用も含まれることが判る。

上記（２）に属する軍事費用(preventive cost)は、次のものである。

（１）尖閣諸島防衛費用（敵は中国）

この例を見ると、この防衛のための予防費用には、防衛成功後の維持費用も含まれることが判る。

もし防衛に失敗した場合には、原状回復軍事費用（recovery cost)が、防衛省の軍事費の計算に加算される。といふことは、この二つの費用を計算に入れて此の場合考へねばならないとすると、予防費用は原状回復費用と、ここでも、メビウスの環の関係にある。これは、上記で戦争と平和の関係がメビウスの環であることに対応し、関係のあり方としては一致してゐるので、この軍事予算計算論には首尾一貫性と斉合性のあることが判明である。

平和には、予防費用の計算が、戦争には原状回復費用の計算が要求される。

勿論、軍事費用の分類は時間視点だけのものではない。空間視点からの分類には、例を挙げると次のやうな分類がある。

例１：国内外視点での分類

（１）国内必要軍事費用
（２）国外必要軍事費用

例２：戦争空間領域分類視点での分類［「戦争空間領域論」を適用する（もぐら通信第５８号）］

（１）宇宙空間必要軍事費用（例：軍事衛星（これに核ミサイル他の武器を積載しても良い）、宇宙空間在敵国軍事衛星攻撃用軍事衛星）
（２）成層圏空間必要軍事費用（例：ジェット戦闘機、ミサイル）
（３）陸海・面空間必要軍事費用（例：地雷、機雷、平目型攻撃または防御兵器（これは私の発明）海底面ならば、提灯アンコウやタコやイカを想像しても良い）
（４）地面下空間必要軍事費用（例：地下要塞、地下基地、地下貯蔵庫、地下武器庫（これらの地下には山中・山腹含む）、核シェルター、もぐら型地下ドローン（これは私の発明））
（５）海底面上空間必要軍事費用（例：原子力潜水艦、魚雷、イルカ型海中ドローン（これは私の発明））
（６）海底面下空間必要軍事費用（例：もぐら型海底下ドローン（これも私の発明。これにミサイルを搭載するなどして核攻撃能力を持たせても良い））

例３：日本は山岳地帯の国だ視点
（１）山岳必要軍事費用（例：空軍などの軍事基地を山中・山腹に設けるースイスの例に倣ふー）
（２）平野部必要軍事費用

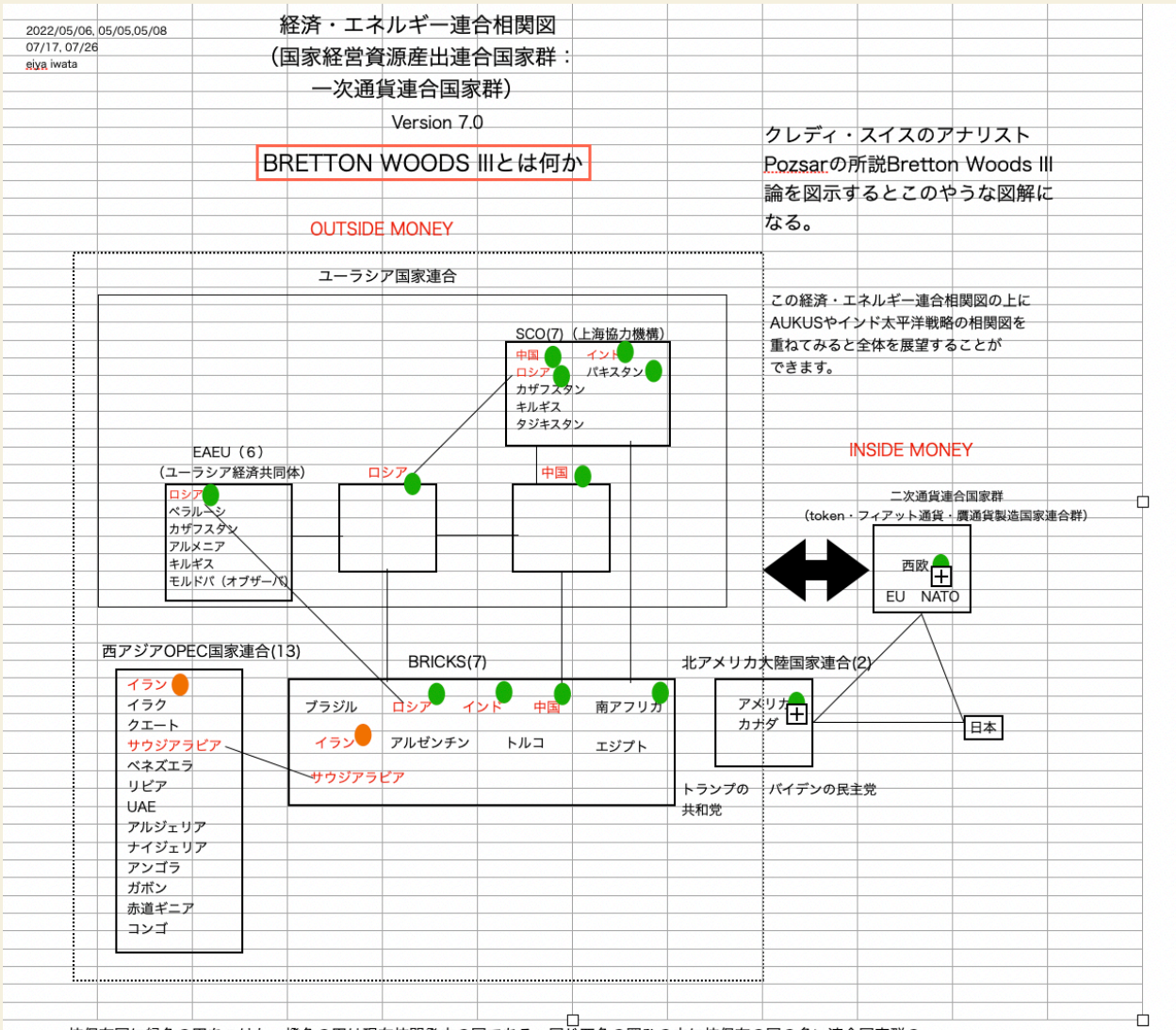
例４：日本は島国だ視点
（１）沿岸部必要軍事費用
（２）近海部必要軍事費用（尖閣諸島の予防費用はこれにあたる）
（３）内陸部必要軍事費用（この分類項目と上記例３の分類を組み合わせて考へる）

ここまで軍事費用の分類をして来て明らかなことは、軍事費用の計算は同時にそのまま戦争に関する方法論の問題、即ち戦略の問題だといふことである。さうであれば当然、大陸国家ではなく島嶼国家である日本の国であるからには、これも当然に軍事戦略は大陸のものとは全く異なるものになることは明らかである。日本は大陸性国家ではなく、海洋性国家である。ここで、必要な軍事戦略とは、島嶼国家防衛および攻撃戦略であるといふことが判明する。

（ここは軍事専門家にお任せして、論としての先を急ぐ。とここまで考察して来ると、日本の所有し日本の本土の周囲にあるすべての群小の島々幾千万に核ミサイルを配備すれば最高の防衛であるといふ考へに至った。これを私はハリネズミ戦略と名づける。この配備が本当の戦略になるためには、まだこの段階では未検討の２１世紀の「ウクライナ以後」の核ミサイル理論を踏まえた戦略

の立案を必要とする。

この核理論は当然にウクライナ以後の世界の政治と経済の多極化を踏まえた核理論である。２０世紀の核保有大国の前提にしたゐた米ソ対立はもはやないのである以上、NPT（核不拡散条約）は無能化する。といふことは、PT（ネズミ算式核拡散条約）が必要になるといふことである。論理の問題としてはかうなる。私はこれを核の大衆化と呼んでゐるが（各国民の軍事意識の問題）、ドル基軸通貨一極絶対支配の崩壊を受けて、政治と経済圏の両方の多極化を現実に見ると、核の多極化と呼ぶ方が良いのではないかと思ふ。既に別途『ネット・モナド論』にて最近再掲を続けた「Bretton Woods III世界地図』に核保有国を追記して、これを多極化相関政治・経済・軍事複合体地図にした改訂版（version 7.0)を作成したので以下に掲示する。ダウンロードは：https://docdro.id/QDOECCx



核保有国に緑色の円をつけた。橙色の円は現在核開発中の国である。同じ四角の囲ひの中に核保有の国の多い連合国家群の内部にあつては利害が食糧とエネルギーに於いて一致してゐることから、助け合って核保有の国が早い時間のうちに同じ核保有水準に到達し、同じ状態をその保有の展開と共に共有することになる。このやうに核保有といふ視点から見ると、これから成長するのは、それぞれ４カ国の核保有国を擁するSCO(7)の上海協力機構でありBRICKS(7)の経済圏である。今の時点で共に７カ国での構成であり、ヨーロッパのフランスとイギリス、そしてアメリカの合計を抜いてゐる。この図にはないが、他に北朝鮮とイスラエルを考慮に入れねばならない。

情景図には、核保有国に緑色の円をつけた。橙色の円は現在核開発中の国である（例：イラン）。同じ四角の囲ひの中に核保有の国の多い連合国家群の内部にあつては利害が食糧とエネルギーに於いて一致してゐることから、助け合って核保有の国が早い時間のうちに同じ核保有水準に到達し、同じ状態をその保有の展開と共に共有することになる。

（この場合の動機と目的は、対立する西欧米との均衡であるが(power politics)、しかしその絶対数からいつても、複数あるロシア枢軸圏内で保有する核保有国の数が多く、核保有の不均衡が起きることになるので、双方の、東西の陣営での交渉がある。NPTが一次元上の条約になるか（西欧米人のものの考へ方を国連に見ればこれはあり得ない）、別の条約を締結することになる。その条約は不拡散といふ目的ではなく、もはや西欧米の西側陣営のコントロールを超えた陣営との交渉になるので、核保有国の既存の国家の多数あることと更なる増加を前提にした条約になるだらう。しかし、そんな条約を結んで一体何になるのだらうか。とりあへず、核開発の現状および核弾頭の保有数の報告と検証の組織をつくるといふことに全世界的に東西陣営で、なる。といふことではないのだらうか。即ち核開発の、国家の大小を問はぬ、西側陣営による核保有の容認および事実の追認と渋々の受容である。）

このやうに核保有といふ視点から見ると、これから成長するのは、それぞれ４カ国の核保有国を擁するSCO(7)の上海協力機構であり、BRICKS(7)の経済圏である。今の時点で共に７カ国での構成であり、ヨーロッパのフランスとイギリス、そしてアメリカの合計を抜いてゐる。この図にはないが、他に北朝鮮とイスラエルを考慮に入れねばならない。これら二つと東西陣営の関係を考へるといふ非常な複雑な組み合わせの政治と経済の多極化となる。この意義に於いても、多極化および多極化の継続と進展は避けられない。何故私が核ミサイルを一つの規準・クライテリアとして持ち出して論ずるかといへば、この武器が国家単位（人間の最大の組織単位）でものを考へる場合の、これに見合つた人類史上最大の武器であるからだ。

結局、この時代の激変期、本質的な変化点即ち転換点、またはpradigma shiftingの時代にあつて、軍事費用計算論の視点からいつても、軍事戦略論および軍事方法論（一体どんな武器をどのやうな場合にどのやうに使用するかに関する方法論）の視点からいつても、我が国の国家軍事戦略を思ひ描くことがなければならないといふことが、ここまで書いてきたことの結論である。

上記冒頭再掲の二つのピラミッド図に照らしていへば、戦争のための戦略論は方法論、即ち戦争方法論であり、それが一般のものであるものとしては上述の通り論じたので、次に個別のものであれば、個別方法論である（例：日本国家軍事戦略論）。また、その下にある作戦も同様の順序で考へることができる（例：竹島奪還上陸作戦論）。といふ最初の問題提起が、以上の通りに一応満遍なく考察することができたので、先を続けることができる。

以上の考察が物理的な世界に於ける軍事計算論および軍事戦略論であること（物理層）に対して、二重構造としてもう一つの、情報に関する通信ネットワークの階層を、それぞれの項目の機能的な、よくいふ串刺しの軍事機能の横断的な階層として考へるべきことだといふことを此の章の最後に付記します。

といふことは、以上の計算論の項目もすべてまた、次の二階層または二重構造論として論ずるべきことだといふことです。

（１）論理層（論理機能の総体）
（２）物理層（物理機能の総体）

上記（１）と（２）は、軍事項目毎に、場合毎に、文脈毎に、軍事機能のすべての交差点、すべての結節点で複合して有機的に或る規則に基づいて結晶してゐるといふことである。その交差点または結節点がメビウスの環であることを発見した場合には、そこに戦争勝利と和平交渉のための智慧が隠れてゐる。これは中国共産党が「超限戦」と呼んでゐるものとは、このメビウスの環といふ交差点または結節点あるいは結晶化点といふ一点に於いて、見かけはどれほど似てゐやうとも、全く大陸の軍事思想とは異質であり、似て非なるものである。これで超限戦に抗する言語論理上または言語理論上の礎石を置くことができたと確信する。キーワードはメビウスの環である。私たちは神社に参拝して御神籤を引き、その御神籤を木の枝に結んでゐる。これは、なあぜ？、これ、なあに？

４.１.４　日本国家核ミサイル保有論

４.１.４.１　武器の本質と分類

縄文宇宙原理の二つの項に戻つて考へる。さうしていつもの通り、私たちの思考原理は西欧米型の二項対立ではなく、これらの対立二項を否定してこれを超越し第三項を求める超越論であるので、この哲学と形而上学の階層から武器の本質を思ひ出し、武器の分類をした後で、核ミサイルの本質を考へ、日本国家としての核ミサイル保有の肯定と否定の場合を考察したい。縄文原理は次の二つであつた（別途必要に応じて『縄文紀元論』を参照されたい）。

（１）世界は差異である
（２）価値は等価で遍在する

４.１.４.１　武器の本質

（続く）

ネット・モナド論
（３２）
プーチンは何を考へてゐるか５
Bretton Woods III（２）

岩田英哉

I. ドル・ユーロ・円・ポンド以外の通貨の流通量の急激な増加について

この動画を紹介します。

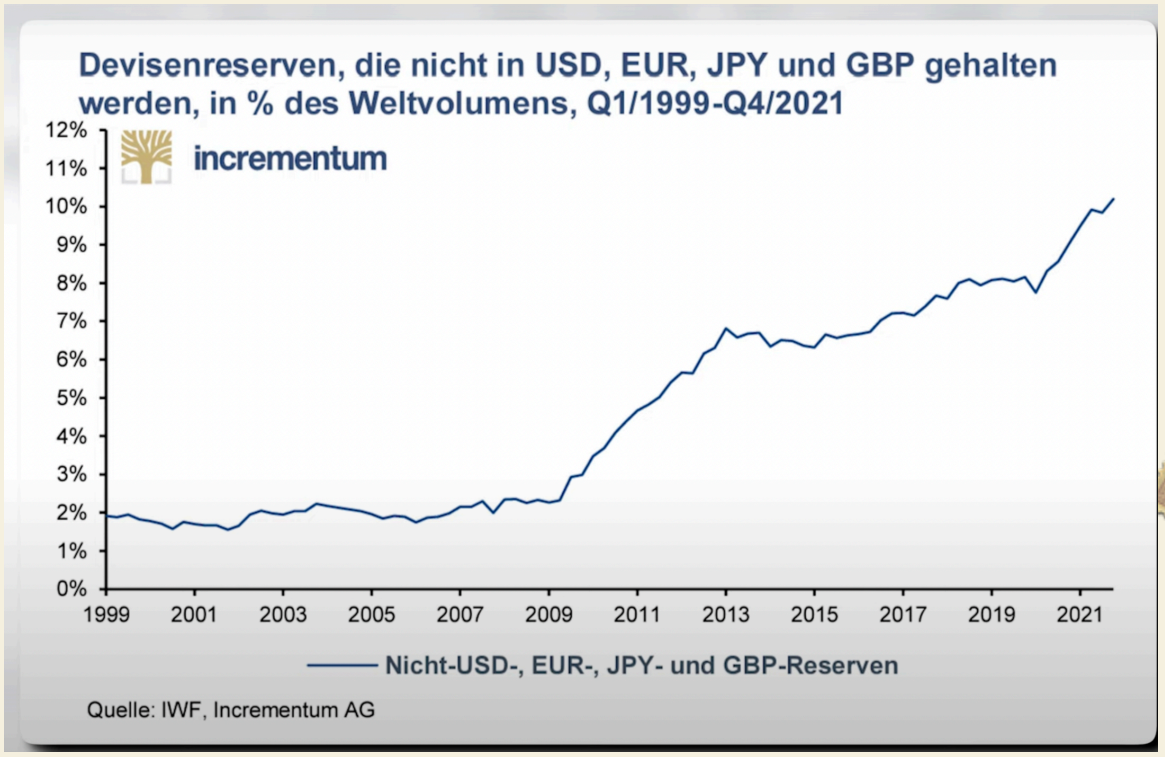
AUS ANGST: China erklärt dem US-Dollar den KRIEG!
https://www.youtube.com/watch?v=owKSZoc6Pw4

この動画はいつも私の見てゐる金の投資専門の動画です。Kettner-Edelmetalleといひます。要するに、紙の紙幣はもう紙屑になるから、手元の現金はみな金に換へなさいといふことを勧める、資産保全と利殖のためのチャンネルです。

この回のこの動画の特集は、インド大手セメント会社がロシアとの取引で購入したロシア産の石炭157,000トンの支払いに人民元で支払ったといふ記事で、これは以前からドイツ語圏の報道では行はれてゐて既知のことですが、金額はユーロ換算で24.5Mといひますから、今の時点での円の値段は対ユーロで136円ですので、24.5M x ￥136＝　3,332M（３３億円）の支払ひを人民元で行つたといふことになります。

このことを、ドイツ語の見出しでは、支那（中国）がアメリカ・ドルに宣戦布告したといふ題名になつてゐる。そして、不安から、さうしたのだといふ頭のAUS ANGSTですから、これはドルの主軸通貨としての崩壊に対する不安からといふ意味と解します。あるいは、人民元を守るためだと理解しても良い。

この動画で掲示された、ドル・ユーロ・円・ポンド以外の通貨の流通量の急激な増加を示すドイツ語圏で共有されてゐる図表を添付します。ドルに付き合って、まあ、日本流にいふと義理だてしてゐると、日本円も一緒に心中することになりかねないといふ世界情勢です。だから、金が安全な資産になりますよ、といふわけです。円貨よ、１日も早くアメリカから独立してをくれ。しかし、その前にはまづ日本人個人が精神的に独立をしなければなりませんが。



上掲したこの図は、継時的に定時観測してアップデイトして行くと、ドルの衰退と、複数のロシア枢軸国を主体とした他の諸国の経済圏の基軸通貨の成長を観察する格好の指標となります。３０％に達したら、アメリカの衰退は決定的です。今は１１％です。

２００９年で加速度のついた成長曲線になつてゐる。２００８年は今また事件の起こりさうなコソボ紛争の年で、２００９年はその翌年です。そして、２０２１年と２０２２年の今年で、といふことは１年半で７％が１１％になってゐます。この加速度はもつと増すと私は想像します。

また、２００８年はコソボの他に経済の事件としてはリーマン・ショックの年でしたので、これに懲りた国々が、そして今の「Bretton Woods III世界地図」を眺めれば、ロシアが中心になつてドル離れを始めたのが２００９年から今に至る歴史だと解釈することができます。

もう少し想像を逞しくすると、２００８年にコソボ紛争（政治）とリーマン・ショック（経済）の発生ですから、今年２０２２年もコソボに紛争の兆しありの今（８月３日）に対して、何らかの恐慌がアメリカから発生するといふ可能性を、人為か自然かは別にして、２００８年を今年に引き写して考へることができます。

バイデン・民主党のアメリカが人為的に恐慌を演出するといふことの可能性は、秋に控えてゐる中間選挙を前にして、考へることはできないので（それでも実行するといふ別の強いDeep Stateの経済上の、どうしてもといふ必然的な動機があれば別ですが）、これがもし起きるとすれば、自然にであり、何かの切つ掛けによつて偶然に起きることがあり得るといふことになります。備へよ、常に（大英帝国の生んだボーイスカウトの合言葉）。

以上の、この図表をめぐつて述べたことは、そのまま次のことを示してゐます。

１。ドルの一極通貨体制の崩壊。従ひ、
２。アメリカの急速なる衰退（上掲の図で非ドル決済量が３０％に達したら、アメリカの衰退は確定です）
３。FRBおよび世界各国の中央銀行の信用の喪失
４。各国中央銀行の存在意義の喪失。従ひ、上記１から３のことにより、
５。BIS（国際決済銀行）の無力化・無能化

以上のことから、

６。主要な基軸通貨を擁する経済圏の自律的な分立と多極化。従ひ、
７。政治的圏域の自律的な分立と多極化

以上が「Bretton Woods III 世界地図」の意味するところです。

ところで、この世界地図の中で、日本の国は何処にゐるのだ？そして、私たちはどうやつて生きるべきなのだ？といふ訳で、次の問ひを立てることになります。今の現職の総理大臣（私はダボスの猿と呼んでゐる）に此の世界認識はないので日本の近未来は危ふい。われと我が身は自分で護らねばならないご時世です。

II　この転換点の激動期に《私》は如何に生きるべきか

《私》とあるこの《 》　の記号はいふまでもなく、安部公房の存在論の記号であり、「あなたの中の「あなた」即ちあなたの中の本当の私である《私》といふ意味です。自分の言葉を持ちませう。そして、自分の言葉で考へ、自分の言葉を発しませう。

ウクライナ問題発生後、私がこのおよそ６ヶ月間読みまた視聴して得た英語圏とドイツ語圏の情報源からの発信をまとめて、あなたにお伝へすると、《私》たち、または《私たち》の生き残るための、さあ、いよいよ「方舟さくら丸」の時代だぞといふことでありますので、その事態と対応する要領は次の通りのものです。

この世界的インフレーションが各国中央銀行でコントロールできない激動期に起きる特徴的な事実は、歴史的に見ると、

（１）最悪の場合、預金封鎖［註１］になる。
（２）最善の場合は、ないと考へるのが正しい。それなら、
（３）次善の場合はあるのか？と問へば、未来に期待をするより絶望を前提に今の生活を見直すべきだ。といふのが、安部公房の読者たる、《私》たちの心構へであるべきです。如何。『第四間氷期』と『方舟さくら丸』は精神安定剤です。

［註１］
https://ja.wikipedia.org/wiki/預金封鎖

さて、上記（１）の場合が起きると、私たちの持つてゐる現金紙幣は文字通りの紙屑になります。何故なら、これらは裏付けの価値のない、金融業界ではフィアット通貨と呼ばれる通貨だからです。この通貨を本来は裏打ちして、その存在を保証してゐるのが金といふ貴金属をもとにした金本位制であつた訳ですが、これが１９７１年のニクソン・ショックで終はり、以後今日まで変動相場制による対ドル基軸通貨一極体制で、ウクライナ問題の勃発までは、やつて来たといふことは前回述べた通りです。そこに書いたBretton Woods IIIが、そのまま世に人のいふ第三次世界大戦の姿であるならば、私たちの具体的な対処法は次の通りです。

（１）あなたの持つてゐる現金を当座必要な額だけを手元に残して、できるだけすべてを金に換へる。
（２）自宅に庭が少しでもあるならば、そこに食糧自給自足体制を確立するために野菜畑をつくる。
（３）もしできるならば、都会の外に、または全く都会を離れて、田舎に耕す土地を借りるか購入するか、あるいは田舎の地価は都会より遥かに安いので家屋を買つて庭に野菜を栽培する自給自足の体制をつくる。物価も地方がずつと安い。
（４）もし賃貸の家屋ならば、今は地方自治体が移住受け入れ促進の政策をどこも採用してゐて、安く賃貸ができる施策があるので、これを利用する。

しかし問題は、預金封鎖が起きると、金も不動産も没収されるといふ事態になるので、これを国家がなすほどの経済状況の悪化以前に、政府に何らかの経済政策をとらせねば、私たちの生活が壊れてしまふといふことです。こちらの政治参加を促進する動機の強化の方が、大切だと私はおもひます。そのためにはいつまでも西欧米の尻尾についてゐる黄色い猿では、日本の政治家はいけないといふこと、反グローバリズム・反共産主義の立場を鮮明にした国家経営を政治家にさせねばなりません。国家とは何か？安部公房と共に考へる絶好の機会ではありませんか。

この動画をご覧ください：預金封鎖・資産防衛：https://www.youtube.com/watch?v=DhaD80d7gTI&list=RDCMUCRsVzMT3vPAFPQStCTMYt5A&index=8

（続く）

【カフカの箴言６】

岩田英哉

【原文】

Der entscheidende Augenblick der menschlichen Entwicklung ist immerwährend. Darum sind die revolutionären geistigen Bewegungen, welche alles Frühere für nichtig erklären, im Recht, denn es ist noch nichts geschehen.

【和訳】

人間の成長の決定的な瞬間は、いつも継続してあるということ。それ故に、革命的な、精神的な運動が、総てそれ以前のものを無価値だと宣言しても、それは正しいということになり、それは何故かというと、今だに何も起きていないからなのである。

【解釈と鑑賞】

これは、当たり前と言へば、当たり前のことを言つてゐるに過ぎない箴言かと思ひます。

しかし、よく考へてみれば、その手の運動は、この程度だといふことを言つてゐるのかも知れません。

即ち、時間が瞬間の連続であり、未来のことは今起きてはゐないので、何でも言へるということ、未だ生起してゐないという限りに於いて、それは正しいといふこと。

しかし、正しいと書くカフカの眼は、辛辣な眼であると、わたしは感じます。それでは、革命など起きないし（革命が正しいものだと仮定しての話ですが）、また精神など欠片（かけら）もない運動だといふことになるからです。

この箴言は、今の世のグローバリズムといふ名前の極左・共産主義の盲信者にもそのまま適用することができます。

【ショーペンハウアーの箴言０】
哲学とは何か

岩田英哉

【原文】

Eine Philosophie, in der man zwischen den Seiten nicht die Tränen, das Heulen und das Zähnekelappern und das furchtbare Getöse des gegenseitigen Ordens hört, ist keine Philosophie.

【和訳】

その哲学者の本を打ち開いてページの間から、涙が、吠える叫び声が、そして歯軋りと互ひに殺し合ふ恐ろしく騒がしい物音の聞こえて来ない哲学、そんなものは哲学ではない。

【解釈と鑑賞】

ショーペンハウアーの主著『意志と表象としての世界』のページの間から、否、行間から、このやうな泣き声が、しかし日本人のやうには女々しくない、号泣の声、男の涙が、そして吠える声が、また言葉と言葉の殺し合ふうるさい音が聞こえてきます。中には、時間を欠いた空間の歯軋りする音も聞こえ、また空間を欠いた時間の呻吟の声、怨嗟の声までドイツ語で聞こえて来るのです。

だから、この主著は本物の哲学書です。

日本の哲学者の書いた書物でこんな血の通つた書物を読んだことはありません。西田幾多郎の『善の研究』にある絶対矛盾の自己同一は十分な概念化がなされてゐないので実際の役に全く立たないことを或るページに至つて知つて愕然としたことがあります。哲学するとは、頭でするものではないのです。人間が生きることそのものです。即ち、あなたの日常です。

もう一つ、言語の観点からこの箴言に加へることがあります。それは最高度の哲学、即ち人間の思索の結晶は、たつた三つの言葉で表現できるといふことです。

ショーペンハウアーの主著の題名がさうであるやうに、このドイツの哲学者の哲学は三つの言葉で言ひ表されてゐます。

曰く、意志、曰く、表象、曰く、世界。

この三つの言葉だけで、あの浩瀚な書物全４巻の主著は書かれてゐます。そして、それは一体どれほど贅沢な世界、豊饒の世界であるか。言葉の少なさに応じて。あなたの饒舌を沈黙に限りなく近づけては如何か。

もしわたしたちがショーペンハウアーにならつて、古事記の別名である哲学書の名前を考へるとすれば、それは、

第一項：世界は差異である
第二項：価値は等価で遍在する

といふわけですから、一行で題名を決めるとすれば、

差異と価値等価遍在の世界

といふことになります。

古事記とは、哲学書『差異と価値等価遍在の世界』なのです。

この、最もアジアに接近し、アジアの中に自分の言葉で入つて来たドイツの哲学者の箴言を続けます。

高天原便り
（5）
向日葵（ひまわり）咲く

岩田英哉

めでたくも、向日葵が咲き始めました。薩摩芋の紅はるかよ、深く地中に育てよ、伸びよ。そして、秋には我が口中に来れ。

先ほど、机に座つて書きものをしてゐたら、上からヤモリの子供が床に落ちてきた。小さくて可愛らしかつたので捕まへようと跡を追つてみたが姿はなかつた。そのうちまたやつて来るであらう。夏で暑いので、玄関を開け放ち、窓も開け放ち、庭に面したフランス窓もみな開け放つてゐるので、入つてきたのだな。

今は大きなオニヤンマが家の中に入つて来て目の前を飛んでゐる。

なるほど、これは庵主の性格そのものを表してゐるのかも知れない。開放的で、開けっぴろげで、つまり穴だらけで、ズボラで、年中季節を問はず隙間風が吹いてゐるといふ。

縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く

（３５）

５.３６　大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか

目次

I 縄文紀元日本語論
１。日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の１％しかゐないのか？

２。日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か
３。五十音表を記号化する
４。日本人の言語宇宙
５。古事記の宇宙観
５.１ 高天原とは何か１
５.２ カミとは何か１
５.３ 高天原とは何か２
５.４ 日本語の特殊の中の普遍
５.５ 海の民のお祭りと超越論の関係
５.６ 天照大神とは何か
5.7 月読命とは何か
５.７.１ 月とは何か
５.７.２ 月読命とは何か
５.７.３ 月読神社とは何か
５.７.４ ヤシロとは何か
５.７.５「鹿座神影図」を読み解く
５.７.６ 磐座と注連縄の関係
５.７.７ 亀の甲羅とは何か
５.７.８ 習合とは何か
5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo２：海凪之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしてゐるのか

５.９ 日本位相習合史
５.１０ 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか
５.１１ かごめかごめの歌は一体何を歌つてゐるのか
５.１２ 縄文土偶とは一体何か
５.１３ 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか
５.１３.１ 位相史のための紀元の分類
５.１３.２ 淤能碁呂島とは何か
５.１５ 縄文土器とは何か
５.１６ 大祓へを読み解く
５.１６.１ 何故私たちは御祓を必要とするのか
５.１６.２ 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

５.１６.３「聞こし召す」前に「しろし召す」がある
（１）第一段：高天原八百万神大祓ひ会議
（２）第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓
（３）第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなつたか
５.１６.４ 八の音義は何を意味するか
Intermezzo３　伊勢神宮とは何か

青字は既論の章、赤字 は今回論ずる章、黒字は此れから論じる章

Intermezzo ３-1　伊勢神宮をやまと言葉で読む
５.１６.４-1　八の音義は何を意味するか２
５.１６.５ 誰が「しろし召し」誰が「聞こし召す」のか
５.１７　いほりとは何か
５.１８「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてゐるか
５.１９　クラとは何か
５.２２「日本列島位相史」の最新版を
５.２３　神武天皇のやまとことばの意味は何か
５.２４ 世界史の中の神武天皇
５.２５　何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？
５.２７　カミとは何か２：何故カミはカミと呼ばれるのか？
５.２８　鹿島神宮とは何か
５.２９　神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか
５.３０ 鹿島神宮とは何か２：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について
５.３１　高天原とは何か
５.３２　経津主大神とは何か
５.３３　「天津国津・東西の神宮とカミ・ヌシの関係」表
５.３４　神宮をやまとことばで読み解く
５.３５　鹿嶋灘を前にしてある東の一之鳥居の立つ明石が浜に南太平洋から一族・部 族を率いて最初に上陸した、その意義では(in this sense)本当のハツクニ・シラス・ スメラ・ミコトの本名はなんといふのか
５.３６　鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？
５.３７　大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか
５.３８　アメの岩屋戸はどこにあるのか
５.３９　天照大御神が凹に「さし籠もりましき」とある意味
５.４０　アメの安の河と安の河原はどこにあるのか
５.４１　アメの安の河原に集ふた神々は何か、どんな神か、そして何故そんなことを するのか
５.４２　鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫烏の現れた話
５.４３　高天原の生活は如何なるものか
５.４４　日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲
５.４５　日高見国と播磨国の関係：ダイダラボッチ
５.４６　日本とは何か

５．３６　鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？

待て次号

東ドイツ回想記
（1）

岩田英哉

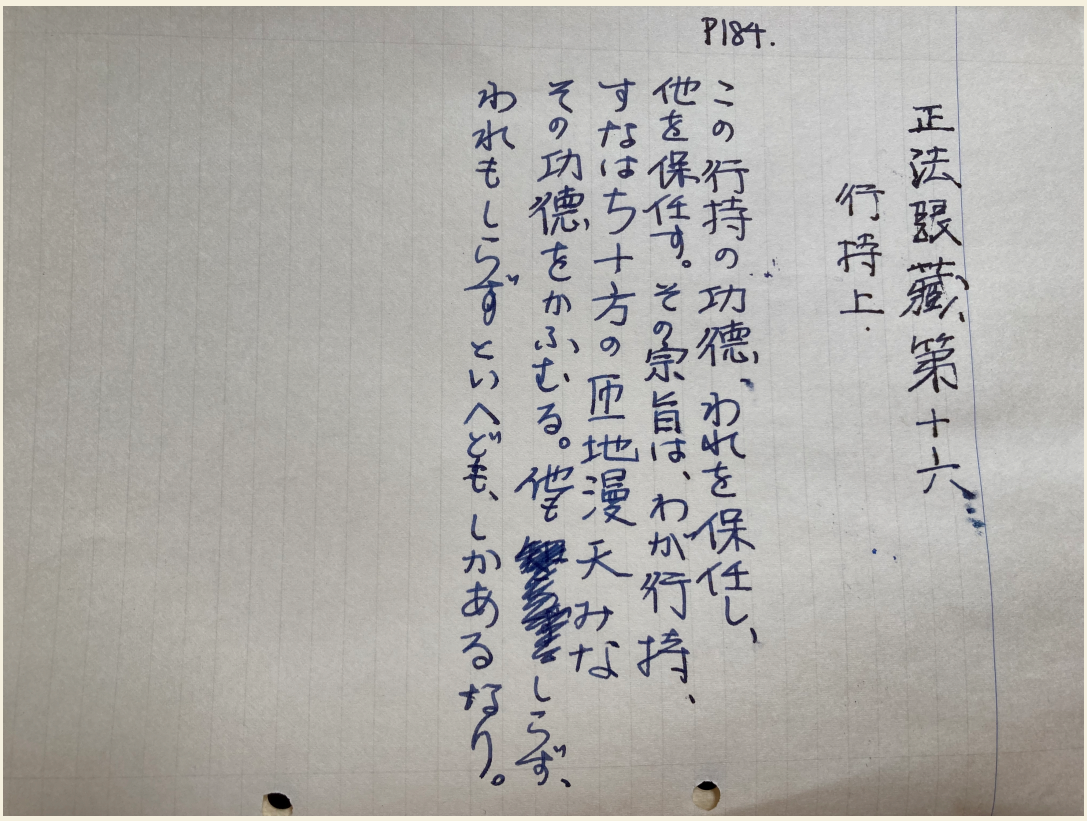
回想といつても、実はこの共産主義のドイツに滞在してドイツ語と日本語の通訳てをした時代のことは、少しも過去のことではなく、今も私と共にあつて生きてゐる私の人生の基礎となつた経験なのであるが、だから此れは回想では正確にはないのだが、しかしこのやうな回想めいたことを思ふと、いつも一緒に思ふ二つの作家がゐる。

一人はカフカであり、もう一人はゴーゴリである。それも共通してゐることは、既に書いた作品の原稿を、前者カフカは親友マックス・ブロートに焼却するように遺言して此の世を去り、後者ゴーゴリは、『死せる魂』の完成してゐた第二部を自分の手で暖炉の、ロシアの暖炉故ペチカといふべきか、その火に投げ入れて燃やしてしまつたといふ故事である。

私の若年からの深い疑問と関心の所在は、一体何故心血を注いで完成させた作品を火にくべて燃やして、跡形もないやうにして、前者ならば死んで行き、後者ならば焼却の後の人生をいはば死者のやうに生きなければならないのか、といふことである。前者の場合にはマックス・ブロートが遺言を裏切り、カフカの作品を大切に保管して、世に出したので、私たちはその恩恵を被り、後者の場合には、ゴーゴリ自ら生前に焼いてしまつたので、『死せる魂』の第二部を永遠に読むことができないといふことである。恐らく、このロシアの文豪は此の命である原稿の焼却のあと、自分の人生の第二部を「死せる魂」として生きたのではないだらうか。此処に、この虚実の皮膜に、作家といはうか小説家といはうか、三島由紀夫の人生を読むとわかるやうに、もの書きの人生の生き死にはあるのだ。

さて、二人のもの書きに共通してゐることは、今私の年齢に書いてゐて知られることなのであるが、二人とも自分の生きた痕跡を消してしまひたいと思つたといふことである。恐らく、その決断までの間に、そのやうな人生を思つて生きてきたのであらう。私が此の今も生きて私の内外に動いてやまぬ経験を、過去を振り返つて言葉にしようとし、ましてや文字にして何かに残る形で残すといふことは、私に上の二人の作家の人生の痕跡を残さないといふ行為を思ひ出させるのであるが、これは何故であらうか。

今およそ、大雑把にいへば４０年前の記憶を思ひ出さうと、一箱の「東ドイツ」といふ太文字で書かれてゐる箱の中身を半世紀振りに、そして文字通りに封印してゐた幅広の透明な荷造りテープを切り開いて、開けて中身を仕分けをしてみると、その分けられた集まりの一つに帳面があつて、当時の私の共産主義国家へ出立する前後の思ひが、次に転載する道元禅師の『正法眼蔵』（岩波書店版）「第十六・行持上」からのみづから引き写した段落にそのまま現れてゐるので、この引用から、このやうな次第で回想ならぬ回想、さう、安部公房の言葉でいへば「燃えつきた地図」を描いてみたい。これなら、回想ならざるものを、今も生きてゐるものを予めさうである「燃えつきた地図」として、超越論的に、回想できるかも知れないからである。二十代の私の文字は今の文字に比べて遥かに丁寧である。同じ思想を、道元禅師は、悟りの跡は残らない、と書いてゐる。これは、目に見えない世界の更にもう一つ奥の世界のことである。無意識の世界のもう一つ奥にある無・無意識の世界とでもいふものか。この世界を道元禅師は行持といふ名と行ひの下に次のやうに書いてゐる。万年筆で此の文字を書いてゐる者とは一体誰であらうか。


P184.
正法眼蔵、第十六、
行持上.
この行持の功徳、われを保任し、
他を保任す。その宗旨は、わが行持、
すなはち十方の厄地漫天みな
その功徳をかふむる。他を[illegible]しらず、
われもしらずといへども、しかあるなり。

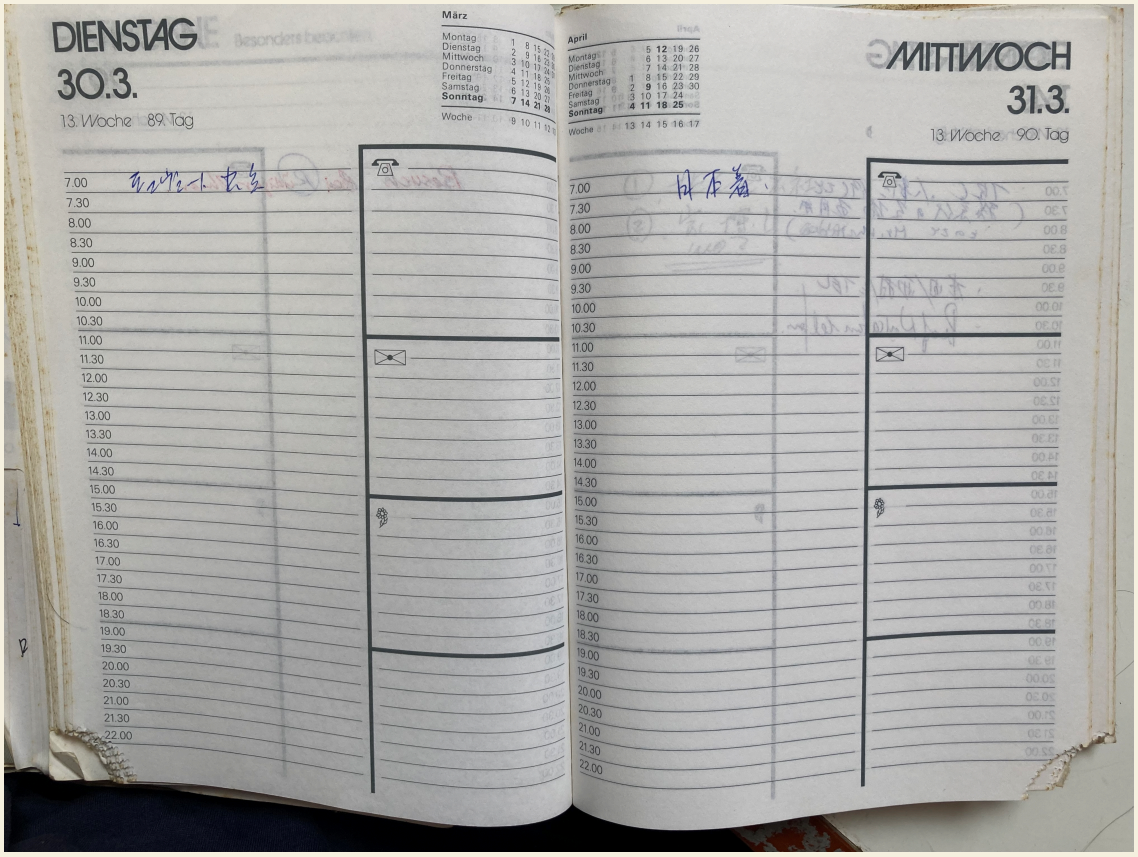
箱の中から出来た帳面や手帳の日付でみると、私の日本出発の日付は記録の資料はなく、しかし帰国の日は次の通りである。東ドイツを発つ前の３月２９日にRuediger Thieleの自宅を私は訪れてゐる。そこでその日に最後の別れを惜しんだのだ。このリュディガー・ティーレといふ男が東ドイツ滞在中に出来た唯一のド

イツ人の友で、この男と家族との交流のことと官憲による、といつても要するに東ドイツ共産党と警察による私個人に対する監視と恫喝の話はまた後述することになる。当然に此の一家は、私の知り合ふ前から、同じ監視と恫喝の元に暮らしてゐる。それが何故でどういふものであつたかは追々話をする。要するに、監視と密告と脅迫の社会が共産主義社会であり、名前を社会主義と呼ばうがグローバリズムと呼ばうが看板が違つても皆中身は同じで、その共産主義による国内複数の社会からなる国家が共産主義国家である。誠に人間に普遍性があるとすれば、この監視と密告と恫喝の社会とは、個別言語を問はず、個別民族を問はず、個別の国を問はず、この監視と密告とそして恫喝といふ３点に於いて、世界普遍性があるといふ、誠におぞましき人間性の悪用によつて成り立つのが共産主義国家である。イデオロギーは国を滅ぼす(これは今の対露制裁によつて生じた国内のエネルギー不足による大混乱を解決できない極左・共産主義・グローバリズムのドイツの連立内閣内の議論を見るとわかる。共産主義は亡国のイデオロギーである)。そして、人間性を破壊し、道徳と文化を破壊する。言葉をただ口から発声するだけで、お互ひに信頼することはなく、口パク人形であれば、それはイデオロギーの、即ち共産主義と共産党の操り人形であり木偶の棒であるが、同じ種類の、私が共産主義的人間と呼ぶ人間を私は帰国後にも何人も見ることになつた。こんな人間たちと一緒に仕事をすることはできない。御免被る。何故ならその社会はいづれ、如何に表を飾つても結局は貧しい社会であることを私は体で知つてゐるからである。これが今の、２１世紀の第一四半期の、私の知る日本の政治と経済の国の姿である。こんなに、物心ともに貧しい国になつてゐる。

下記の資料の示す日付変更線を跨ぎながら、私は日本航空JALのエコノミー・クラスの席に座つて、かう考へてゐた。それはつい昨日のことである。やつと日本に帰るのか、帰る？お前は本当にこれから惨状を呈することになるそんな国帰りたいのか？それはお前の本心か？と、内心の声が聞こえた。何故なら東ドイツで共産主義の実態を見聞した私には、この先の日本も同様になるだらうといふ予測がつき、その腐臭を発する惨憺たる国家の姿が機中で私の目の前に、私の目に実際に、見えたからである。お前は、そんな国に帰りたいのか？と、私は再度自問自答した。今思ひ出すだに恥ずかしいことに、私は数瞬躊躇（ため）らつた。同じ其の恥ずかしさも、その数瞬の間に感じたやうに思ふ。そして、やうやく、かう決心したのである。よし、日本の国で死なう。と。半ば、溜め息が混じつてゐたかも知れぬことを、今私は恐れる。

リュディガー・ティーレ宅最後の挨拶のための訪問（１９８２年3月２９日）

ベルリン・テーゲル空港から飛び立つ（ドイツ時間３月３０日）。翌日成田空港に到着する（冬時間で７時間１日の時差があるので、日本時間３月３０日の帰国といふことになる）。



編集後記

今月で編集後記は終はりにします
本文の原稿を書いたら、それで十分です。
必要があればまた書くことにします。

差出人:

安部公房の広場

〒182-0003東京都調布市若葉町
「閉ざされた無限」

安部公房の広場
連絡先：eiya.iwata@gmail.com

【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館
「何處にも無い圖書館」

【もぐら通信の編集方針】

１．もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
２．もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
３．もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
４．編集子自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。